

〈論文〉

札幌大学学生の修学状況について ——「標準学生」4年間の修学調査から——

岩 堀 洋 士

はじめに

本稿は、札幌大学に入学した学生たちが4年間、自らの所属する学部学科の教育課程表に従いながら、どのように科目履修を行い、単位を修得していったのか、その過程を検証したものである¹⁾。そしてその検証結果に基づき、本学が抱える教育上の問題と課題を提示したいと考える。

学則によれば、開設授業科目は大きく専門科目と共通科目に分類される。その他、教職・社会教育主事・学芸員等の資格取得のための授業科目が開設されている。学生たちはこれら授業科目のなかから、卒業要件・進級要件を考慮しながら、各学部学科の教育課程表に提示された条件に従って、自らの履修科目を選択し、修学していく。入学時に指定される枠組み・条件は、学部学科によって、また入学年度によって異なってくる(所謂「カリキュラム改訂」)。本学においても、小幅なカリキュラム改訂は常時行われ改善が図られているが、時に大幅なカリキュラム改訂が行われ、それによって学生の履修動向は大きく変化することになる。

そうした学生の履修動向の変化、学部学科による違い等推移・比較と評価をよりの確に行うため、「調査対象」たる「対象学生」と「調査対象科目」について、一定の条件・基

1) 筆者は2007年12月、宮腰昭男学長より「学修状況調査チーム」の代表として、札幌大学学生の修学実態を調査、報告するよう、委嘱を受けた。本稿は、学長の諒解のもと、その実態調査によって得られた修学状況のデータを資料として用いているが、評価等に関する見解は全て個人見解であり、文責は全て筆者にある。なお、本稿のベースとなったものは2008年4月「札幌大学学生の修学状況～第3次報告」として学長に報告済みであり、同年5月部長会においても報告、その「概要」は学内イントラでも公表されている。

準を設定し抽出した。まず「対象学生」については、「4年間継続して履修実績のある者」に限定した。調査対象期間全期間にわたって同一条件で履修していることが望ましいと考えたからである。この観点から、履修条件に変化が生じた学生（転部転科・編入学生、短期留学生等）や休学・退学等によって履修に欠落年が生じた学生等は、除外した²⁾。

次に「対象科目」については、「通常の修学」、「教育課程表」に記載の科目という観点から、「共通科目（共通基礎科目）」と「専門科目」だけに限定した。したがって、学生数全体から見れば比較的少数の学生に限定される資格取得に関連した科目、海外を含めた他大学の科目等は、調査対象科目から除外した。また、学部学科によって取扱いの異なる「他学部他学科履修」科目についても、分類の煩雑さを避けるために調査対象から外した。

また、外国語学部・経営学部は2学科制、文化学部は2006年度までは2学科制、法学部は2006年度から2学科制と、経済学部を除きいずれも2学科制になっている。但し、履修条件並びに履修実態等を考慮して、外国語学部を除き、学部単位で集計した。外国語学部の英語学科（以下、外語英語学科と略記）とロシア語学科（以下、外語露語学科と略記）とでは履修条件・履修実態にかなりの相違があるため、学科単位で集計した。

このような観点に立って、本稿では、「入学後4年間にわたって同一学部学科で継続的に履修している学生」を「標準学生」として抽出し、その「標準学生」の「共通科目（共通基礎科目）」と「専門科目」に関する履修・単位修得状況を、経年変化および学部学科比較という面から調査・検討する。

次に「対象期間」であるが、学生の履修動向の「推移・変化」という点からすれば、かなり長期的な調査が必要となるが、現時点において調査遡及可能な過年度データは限られる。現時点において調査可能で最も古いデータは「2001年度最終成績」である。また、「2002年度」以前のデータでは科目分類に最低限必要な「時間割コード」が記載されておらず、科目分類において不十分さを免れえない。その不十分さを承知の上で、現時点で最も遡りうる学生の入学年度は「1997年度入学生」ということにならざるを得なかった。

「4年間の修学」ということを眼目に調査するため、基礎データは基本的には4年間の履修実績全てが収録されている「卒業年度末の最終成績データ」を採用した。したがって、本来的には「1998年度」入学生からが対象となるが、「2001年度最終成績データ」には「1997年度入学生」の履修実績が挿入されていたため、「1997年度入学生」も調査対象として採用した。

2) 札幌大学では文化学部を除き、2005年度入学生までは2年次から3年次への進級制度を採用していたが、データ上「留年生」を特定することが必ずしも容易ではないため、「進級留年生」であっても4年間継続して履修実績がある学生は「標準学生」に算入した。

したがって、以下で検討する調査対象期間、調査対象学生、調査科目は、「1997年度」以降入学の、「4年間継続して履修実績」のある学生の、「共通科目（共通基礎科目）」と「専門科目」である。

2005年度以降入学生については在学期間が4年間に満たず、卒業生も出していないことから、2004年度以前入学生の扱いに準じて「標準学生」を抽出した。2005年度入学生は3年間、2006年度入学生は2年間、同一学部学科での継続履修実績がある学生を「標準学生」として、調査対象とした。2007年度入学生については2007年度の履修実績がある学生を「標準学生」とした。調査対象科目も、2004年度以前入学生と同様、「共通科目（共通基礎科目）」と「専門科目」である。

調査対象を以上のように絞った上で、以下、4年間の修学状況、初年次生の修学状況を中心に検討する。まずは「4年間の修学状況」を検討することで実態を明らかにし、背後の事情と注目点を探る。次いで、4年間の出発点をなすと同時に、修学上の特徴が最も顕著に現れる「初年次生（1年次生）の修学状況」を検討する。ここでは、学生たちの修学状況とカリキュラム改訂との密接な関連性を検証したい。次いで、「初年次」と「4年間」をつなぐ「2年間」「3年間」「4年次生」の修学状況も簡単に概観する。

「実態」を明らかにすることは「課題」を剔出することでもある。本稿を通じて、本学学生の修学実態を検証することで、本学が抱える教育上の喫緊の課題・問題点を提示したいと考える。

1 4年間の修学状況

(1) 科目履修の状況

まずは、学生たちが4年間の修業年限を終えた時点での「結果」から見ていきたい。4年間の修学状況を、共通科目・専門科目・両科目群合算（総合）別に、履修科目数・履修単位数・修得単位数で示したものが表-1および表-2であり、そのうちの一部をグラフ化したものが図-1および図-2である。数値は総科目数ないし総単位数を対象学生数で除した「学生一人当たりの単純平均」である。本稿では特に断りのない限り、経年変化および学部学科比較に際して「学生一人当たりの単純平均」を数値として用いる。

表-1および表-2に示されるとおり、1997年度入学生（2000年度卒業）から直近の2004年度入学生（2007年度卒業）までの8カ年度の入学生の総履修単位数は166—170単位の間で推移しており、大きな変化は見られない。しかし、履修科目数は1997年度の47科目から2000年度の56科目、2001年度の65科目、2003年度の71科目へと、かなり大

きな変化を示している（図-2の（1）も参照）。単位数の横這いと科目数の急増が同時並行的に進行した背景には、開設科目の単位編成に変化が生じたことを推測させる。

共通科目・専門科目別に推移をみると、共通科目については2001年度入学生までは17科目前後で推移してきたが、2002年度以降徐々に増加し、2003・2004年度入学生では25科目前後に増加している。履修単位数は逆に、2000年度入学生までは60単位前後であったものが2001年度以降入学生では50単位前後に減少している。共通科目の履修においては科目数の増加と単位数の減少が現れているのである。他方専門科目においては、履修科目数・履修単位数共に増加傾向にあるが、2001年度入学生においてその動きは特に顕著である。この年、専門科目は科目数・単位数共に増加し、共通科目とは対照的な動きを示している。

このような入学年度別推移から、特に注目すべき年度は、2001年度（入学生）であり、2003年度（入学生）である。そこで、1997年度入学生、2001年度入学生、および、2003年度の変化も反映している2004年度入学生について、学部学科比較図で示したものが、図-1と図-2である。

図-1の3つのグラフを見れば、2001年度入学生の変化が何処で生じたかは歴然としている。2001年度入学生は1997年度入学生に比し、経済・経営・法学の各学部において専門科目の履修科目数が大幅に増加することで総履修科目数が大幅に増加、共通科目と専門科目の履修科目数の開きが広がったのである。この3学部で全学部生の8割以上を占めている（表-1参照）ため、2001年度における変化（履修科目数、特に履修専門科目数の増加）が生じたわけである。経営学部においてこそ専門科目数の増加と専門科目履修単位数の減少が現れているが、経済・法学両学部においては専門科目数の増加と専門科目履修単位数の増加が同時に進行し、履修の「専門科目化」が一層進行した。この現象は特に法学部において顕著であり、履修科目の85%、履修単位の88%を専門科目が占めることとなった。

この2001年度入学生に対し2004年度入学生では、逆に法学部を除き、共通科目数と専門科目数の開きが縮小している。専門科目の履修科目数がほとんどの学部学科で減少したのに対し、共通科目の履修単位数は微増減に過ぎないが、履修科目数は各学部学科とも大幅に増加した結果である。経済学部においては履修単位数およびその構成（共通科目と専門科目の履修単位構成）では大きな変化が見られないものの、共通科目数の増加と専門科目数の著減が相俟って、履修科目数で共通科目と専門科目がほぼ同数という状況になっている。

そこで、変化の大きさおよび全学への影響の大きさを考慮して、経済学部生と法学部生

の入学年度別履修状況の推移を図で示すと、図-2のようになる。経済学部生の場合、専門科目数・単位数の増加は1998年度入学生以降徐々に進み、2000年度入学生でピークに達する。高原状態が続いた後、2004年度入学生で科目数は急減するが、単位数の減少は生じていない。他方共通科目は、2001年度入学生以降科目数が漸増状態にあるのに対し、単位数については微増減はあるものの、大きな変化は見られない。

このように経済学部生の場合、全体としてはなだらかな変化が特徴的であるのに対して、法学部生の場合は、2001年度入学生を区切りに顕著な変化が生じている。総履修科目数・単位数に大きな変化が見られないなか、共通科目と専門科目の構成が2001年度入学生において大きく変化している。共通科目の急減と専門科目の急増が生じ、履修の「専門科目化」が一挙に生じている。

以上、8カ年度にわたる入学後4年間の「標準学生」の「平均像」を見てきたが、学生たちの修学状況は全体としても、また学部学科ごとに見ても、変化が起きていることは確認できた。そして学部学科ごとの違いも明白になってきていることも、確認できた。

こうした学生たちの修学状況の「変化」と「相違」の背後に「カリキュラム改訂」があることは容易に推測できるし、「変化」をどのように評価するかはカリキュラム変更の「目的」と密接に関わることである。したがってここでは、その点に深入りすることはせず、「学生の修学状況に変化が生じてきている」、「変化の姿、度合いは学部学科によって異なっている」という事実を指摘するに留めておく。

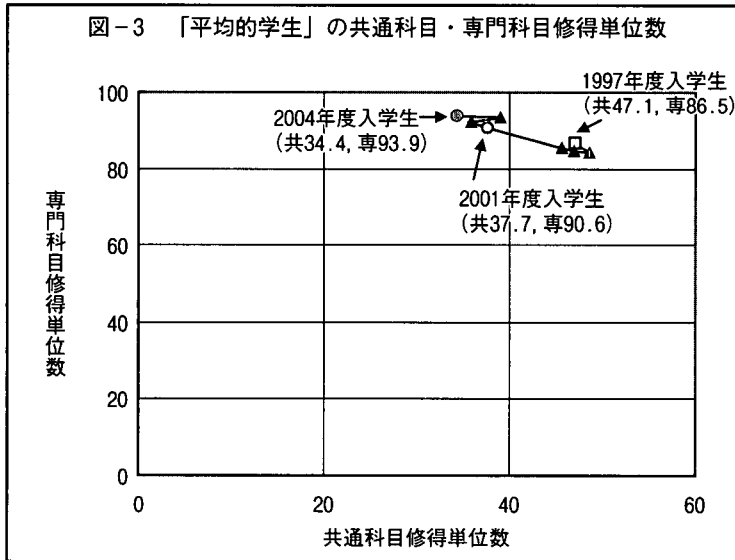
ところで、以上は全学部生および各学部学科生の「平均的学生」の姿であって、入学年度別の推移や学部学科間の特徴・比較を描き出すには有効であるが、個々の学生の姿を示すものではない。むしろ「平均像」から乖離した学生の方が多いとも言える。そうした分析上の難点を補う意味で、次には個々の学生たちの「分布状況」を示したい。

(2) 修得単位数分布

前項では「標準学生」の「科目履修」状況を中心に見たが、ここでは「修得単位数状況」を見ていく。学生たちは在学4年間で共通科目と専門科目をそれぞれ何単位修得したか、マトリックス図で示すことで、学生の修得単位数分布の状況を確認しておきたい。その図が図-3～6である。

まず図-3を用いて、分布図を概説しておく。図-3は、横軸に共通科目修得単位数、縦軸に専門科目修得単位数をとり、各入学年度の平均的学生の共通科目・専門科目の修得単位数の位置を「点」で示したものである。1997年度入学生の共通科目修得単位数は47.1単位、専門科目修得単位数86.5単位であるので、横軸47.1、縦軸86.5の交点である

四角白抜点が1997年度入学生の点である。同じく2001年度入学生（共通科目 37.7 単位・専門科目 90.6 単位）は白抜丸点，2004年度入学生（共通科目 34.4 単位・専門科目 93.9 単位）は黒丸点で示される。



同様の要領で1997年度入学生，2001年度入学生，2004年度入学生について，学部学科ごとに各々の学生を点で示し，その分布状況を見たものが図-4~6である。同じ修得単位構成の学生が複数いる場合でも点は1つであるため，点の数が学生数を表すとは必ずしもいえないが，どの位置に学生が集中しているかは概ね見て取れる。集中領域を楕円形で囲っているが，その位置と形が学部学科によって，また入学年度によって異なっていることは明白である。

楕円の長さが長いほど，面積が広いほど，共通科目・専門科目の修得単位構成が多様であることを表し，円形に近く，面積が狭いほど修得単位構成が似ていることを示す。また，楕円の位置が左に寄れば「専門科目」中心の修得，中央に近いほど共通科目の修得割合が高まり共通科目と専門科目の開きが小さくなっていくことを示す。

なお，図中の点線（縦軸120と横軸120を結ぶ直線）は共通科目と専門科目合計の修得単位数が120単位であることを示している。対象科目を「共通科目」と「専門科目」だけとし，資格関連科目や他大学・他学部他学科科目を除外していること，また卒業要件・卒業必要単位数等が学部学科によって異なっていることから明瞭な区分線とはいえないが，概ねこの点線より下に位置する学生は卒業必要単位に達しなかった学生，つまり「留年

生」と考えてよい。

以上の点を考慮して改めて図-4~6を見てみると、隣接分野を専門領域とする経済・経営・法学の社会科学系3学部を比較しても楕円の形、位置が異なっている。経済学部生は楕円が細長くなっていることから、共通・専門の修得単位構成が多様であるのに対し、経営学部生は楕円が円形に近くなっていることから、修得単位構成の類似した学生が比較的多数存在していることを示している。また法学部生にあっては、1997年度入学生の「共通・専門バランス型」から「専門科目偏重型」とも言える修得単位構成に激変している。

また人文系の文化学部生は専門重視型ではあるが、縦長型から経済学部に近い形に変わってきている。語学系の外語英語学科生は小さな丸型を示し、全学生が比較的類似の単位構成にあることがわかる。また露語学科の学生の場合は、他の学部学科に比べ学生数が少ないこともあって明示的には言えないまでも、学生の修得単位構成が分散してきている様子は見て取れる。

このように4年間の修得単位状況を学生の分布図で見ると、学生たちの科目履修・単位修得は、一面では、学部学科によって、また入学年度によって区々でかつ変化を示してきている。このように同一入学年度、同一学部学科内においても様々なタイプの学生が存在しつつも、同時に他面では、学部学科の教育課程を反映した姿・形をなしていることも事実である。

4年間という期間の中で、学生たちは多様な科目履修・単位修得を積み重ねつつ、課程表に示された「卒業要件」の枠に収まるよう修学した結果が、以上に見てきた分布図の姿である。その意味で、分布図、学生集中領域の「形」と「位置」は、課程表に定められた各学部学科の「教育方針」が具現したものと捉えることができる。その学生集中領域の形・位置に学部学科間の違いが見られるということは、各学部学科の教育方針になお大きな違いが存在することを示している。

そこで次には、「卒業までの4年間」の途中経過を見ることとする。特に4年間の出発点をなす「入学初年次（1年次生）」については、各学部学科ともカリキュラム改訂の際に力を入れていることから、学部学科の教育方針の具体化たるカリキュラム変更の具体的内容に触れながら、入学初年次の修学実態を検証していきたい。

2 入学初年次の修学状況

大学に入学した初年次の学修はその後の学修を相当程度左右すると言っても過言ではない。大学での学修、学部学科での学修の導入・基礎をなす過程であって、修学状況調査に

においても根幹をなすが故に、全学部生の動向と同時に、カリキュラム編成の主体をなす学部学科ごとの動向にも注目しながら、その実態と背景をなすカリキュラム変更について検証していく。

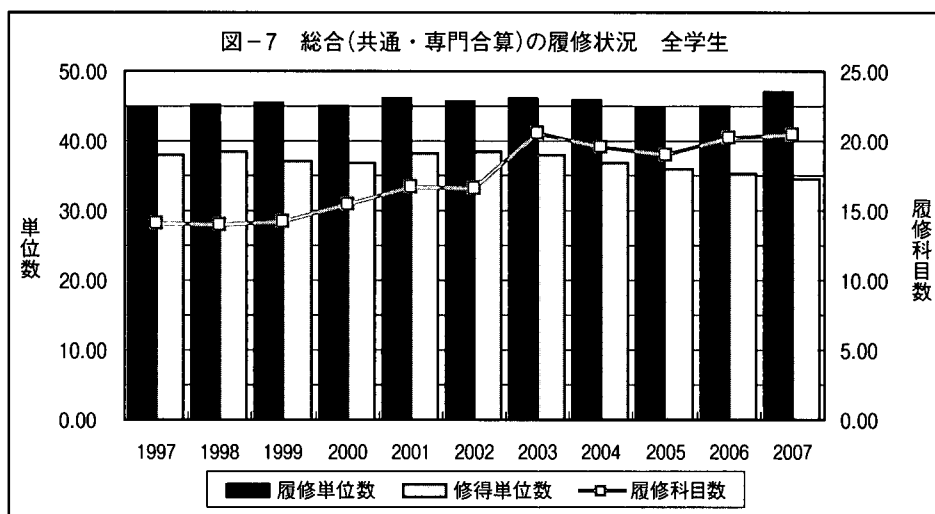
まず、本章において基礎となる数値を、表-3に示しておく。なお、ここに用いた「数値」については、4年間の修学状況の分析同様、経年変化および学部学科比較に有効な、総科目数ないし総単位数を対象学生数で除した「学生一人当たりの単純平均」である。

(1) 全学部生の状況

まずは全体の状況を把握するため、全学部生について、1997年度以降、直近の2007年度までの入学生の履修・単位修得状況をみておく。全学部生の共通科目・専門科目を合算した履修科目数・履修単位数・修得単位数の推移を図-7に示す。

この10年間、初年次生の「履修単位数」にほとんど変化はなく、「45単位」前後で推移している。学部学科によって若干の多寡があるとはいえ、各学部学科とも「年次別履修上限単位数」を設定（1年次生で40～52単位）しており、学生はその「履修上限単位数」の枠内で履修授業科目を決定するからである。

しかし、「履修科目数」で見ると、2002年度から2003年度にかけた急増、その後2005年度までの減少という状況を内に含みつつ、この10年間、趨勢的には「履修科目数の増加傾向」が見られる。同時に、この10年間で単位修得率は10ポイント以上も低下し、



入学年度	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	85.0	84.9	85.0	81.8	83.1	80.8	82.3	80.1	80.4	78.0	73.0

2005年度以降の3年間で見ると、履修科目数・履修単位数の増加と単位修得率の低下が生じている³⁾。

このように初年次生の履修・単位修得状況は、共通科目履修と専門科目履修の複合作用の結果であり、そこには共通・専門それぞれに実施された「カリキュラム改訂」が影響している。そのことを示したのが図-8である。共通科目と専門科目を比較すると、履修単位数・修得単位数・履修科目数何れの項目でも対照的な動きを示しており、両者の複合作用で図-7が引き起こされた様子が見て取れる。そこで、専門科目に現れた変化については学部学科別の項に譲るとして、ここでは共通科目に関するカリキュラム改訂と履修状況変化の關係に絞って検討する。

共通科目に関しては2003年度および2006年度に大きなカリキュラム改訂が実施された。2003年度においては、従来の「共通基礎科目(A・B)」が「共通科目」と名称変更されると同時に、その編成が大きく変更された。その要点は、①共通基礎A(各学部開設の関連科目群)の廃止、②「通年4単位科目」の「半期2単位科目」化(「体育」は「通年2単位」から「半期1単位」へ)、③開設科目数・担当教員の大幅増加、④外国語の「英語」科目の再編(学部科目と全学共通科目)等である。次いで2006年度において再び、共通科目の大幅再編が実施された。その要点は、共通科目を「基礎科目」(表現力養成・情報・外国語・体育)、「教養科目」(旧「類」科目群)、「キャリア科目」の3科目群に分類の上、科目の整理拡充を行ったことである。これによって、従来各学部学科の専門科目として開設されていた1年次演習や情報関連科目が共通科目に編入されることとなった。また外国語の「英語」科目も全て全学共通化され、グレード制(レベル別編成)が採用された。

こうした共通科目に関するカリキュラム改訂を念頭に置くと、図-8の上図に示される変化は、「カリキュラム改訂を反映した変化」であることが理解できる。その顕著な例が2003年度に現れた変化である。共通科目の履修科目数・単位数は共に2002年度まで減少傾向を辿ったが、2003年度に科目数は倍増近い増加を示しつつも、単位数にはほとんど変化がなかった。2003年度改訂によって「通年4単位(2単位)科目」が「半期2単位(1単位)科目」に細分化された結果である。

2003年度以降科目数・単位数とも再び減少傾向を辿り、2001年度に単位数基準で50%を割った共通履修率は、2004年度には40%を割り、2004年度・2005年度と38%台にとどまった。ところが、2006・2007年度には再び科目数・単位数とも増加に転じ、単位数

3)「標準学生」を対象にしているとはいえ、2004年度以前入学生と2005年度以降入学生とでは現実には相違がある。入学年度が新しいほど単位修得の好ましくない学生が多く含まれることになり、その分、入学年度の新しい学生たちの「単位修得率」は低目になってしまうのも事実である。

はかつての水準を回復し、共通履修率も2007年度には50%を超えるに至っている。長らく続いてきた「履修の専門科目化」が2006年度に反転したのは、2006年度の制度変更が影響している。

このように、共通科目に関する制度変更に伴って学生たちの履修動向が変化していることは明白であるが、問題はその内容である。いわば「形式的変更」が「形式的変化」に止まっているのであれば、それほど「変化」に着目する必要はない。2003年度における履修科目数の急増がその好例である。しかし、2006年度の制度変更と変化には、それ以上の意味づけが求められる。専門科目の共通科目化を含む「共通科目の整備拡充」がその内容であったとすれば、その「目的と実現・効果」に関する評価が必要となる。共通科目に関する今後の展望・展開を図る上では、その「評価」作業こそ不可欠の作業であると考えらる。

筆者自身の「評価」はここでは控え問題指摘に止めるが、その「評価」に関わって注目すべき事実をいま1点指摘しておきたい。それは「単位修得率」の動向である。「修得単位数」は「履修単位数」とほぼ同じ傾向を辿ってきているが、「単位修得率」はかつての85%を超える水準から80%を割る水準へと低下し、2007年度には70%を割るに至っている。「初年次生履修の共通科目化」（履修科目数・履修単位数の増加・共通履修率の上昇）が進みつつあるなかで単位修得率が低下しているという事実をどのように認識し評価するか。課題は大きいと言わざるを得ない。

全学部生の初年次修学状況、特に共通科目に関する総体的修学状況は以上の如くであるが、全学部生の動向、共通科目の動向は各学部学科の専門科目履修の結果でもある。そこで次には、各学部学科の専門科目に着目しながら、学部学科別の初年次生の修学状況を見ていく。

(2) 学部学科別状況

学生たちの履修・修学動向に関わると思われる学部学科のカリキュラム改訂の要点を表-4にまとめておく。各学部学科において実施されたそれぞれのカリキュラム改訂の目的、実施経過、目的実現度、評価等々について、全学的に情報が共有されているわけではない。したがって表-4に記載の「改訂要点」は、学生向けに編集された冊子『学生生活のてびき』収録の各学部学科の「教育課程表」の変遷および関連項目を参照して、まとめたものである。

一瞥すれば明らかなように、2000年度以降ほぼ毎年、全面改訂、部分改訂を含め、何れかのセクションでカリキュラム改訂が行われている。この表-4と学部学科ごとの入学

年度別推移図（図-9～14）を照らし合わせながら、各学部学科生の修学状況を検討する。

（i）経済学部生の修学状況

経済学部生の初年次修学状況は図-9の通りである。

2000年度入学生において専門科目の科目数・単位数の急増と共通科目の減少が生じているが、まさに2000年度のカリキュラム全面改訂を反映した姿である。授業科目の単位編成が「通年4単位」から「半期2単位」に変更され、外国語専門科目の新設を含め1年次生配当の専門科目が大幅に増加した結果、科目数・単位数両面で「履修の専門科目化」が一挙に現れた。同じ状況が2001年度入学生、2002年度入学生と継続していることから、カリキュラム改訂の結果生じた現象であることは十分に推測できる。

2003年度入学生では逆に、科目数・単位数両面で専門科目の減少と共通科目の増加という「逆転現象」が生じているが、これは「共通科目」再編の影響が考えられる。また、2004・2005年度入学生においては専門科目の科目数減少と単位数増加が生じ、共通科目は科目数・単位数共に減少している。これは、2004年度改訂において授業科目の単位編成が「半期2単位」から「半期4単位」へと変更された結果であろう。2005年度入学生において専門科目への一層の傾斜（専門履修単位数の増加・共通科目の減少）が生じたのは、「履修上限単位数」が年間46単位から40単位へと引き下げられた結果、学生たちが「専門科目優先」で科目履修したことが考えられる。さらに、2006・2007年度入学生においては専門科目減少・共通科目増加という「再逆転現象」が生じているが、これは専門科目・共通科目間の科目編成の変更によるところが大きいと考えられる。

このように、過去10年ほどの経済学部初年次生の履修動向はかなり激しい変化を見せているし、カリキュラム改訂と密接な関連を有している。しかも、専門科目・共通科目の履修動向を左右している主要因が「専門科目のカリキュラム改訂」にあり、副次的要因として「共通科目のカリキュラム改訂」があることが推測できる。

（ii）経営学部生の修学状況

経営学部生の初年次修学状況は図-10の通りであるが、2001年度の専門科目カリキュラム改訂ならびに2003年度の共通科目カリキュラム改訂の影響は図に明確に現れている。2001年度には専門科目履修科目数が、2003年度には共通科目履修科目数が増加している。但し、その変化の動きは、経済学部に比べ「なだらかなこと」が特徴的である。

そのこと以上に経営学部初年次生の特徴を示すものは、経済学部を含め他学部と比較した場合の「共通科目履修率の高さ」にある。共通科目の履修単位数を示した上図と専門科

目の履修単位数を示した下図，夫々の棒グラフの高さを比較すれば明かである。単位数基準で見た共通科目履修率は過去 10 年間一貫して 60%を超える水準にあり，2007 年度入学生にあっては 70%を超えている。

このことは，経営学の専門教育過程において「段階的学修」が極めて重視されていることの反映である。初年次生の専門科目は当初より，ごく少数の入門・基礎の必修科目に限定されている。専門選択科目の開設も少数に限られているため，学生たちの履修は結果的には，必修科目に指定されている外国語を含む共通科目の履修に偏ったものになっていると考えられる。

(iii) 法学部生の修学状況

法学部生の初年次修学状況は図-11 の通りである。専門科目・共通科目の履修状況は 2001 年度入学生で一変している。2000 年度入学生までの「共通科目中心」の履修から，2001 年度以降入学生の「専門科目中心」の履修へと急展開した。共通科目 (A) の専門科目への組み替えと拡充，英語・情報科目の専門科目新設等を含め，2001 年度改訂で「授業科目の学部内充足」が図られたことにより，「専門科目への傾斜」が極めて強い状況が生まれた。

2006・2007 年度入学生においては逆に，科目数・単位数とも，共通科目の増加が現れている。これは，専門科目における「入門演習」の共通科目化と，英語・情報科目の共通科目への「事実上の移行」が作用していると思われる（この点は後述の「(4) 補論」を参照）。また，専門科目における科目数の増加・単位数の減少には，科目編成の変更に伴う「半期 1 単位」の特講科目の拡充が影響している。

このような動向を経て法学部生の履修状況は，「専門科目への傾斜」が弱められつつあるとはいえ，共通科目履修率は 30%前後に止まり，依然として「専門科目重視の履修」が継続している。経営学部とは対照的な履修状況が特徴的である。

(iv) 文化学部生の修学状況

文化学部生の初年次修学状況は図-12 の通りである。

文化学部は 1997 年度開設の最も新しい学部であり，新たな理念で誕生した。その理念とは，2000 年度改訂で経済学部が，そして 2001 年度改訂で法学部がより徹底した形で，夫々追求した「授業科目の学部内充足」である。そのことを明確に示しているのが図-12 である。当初 4 年間（2000 年度入学生まで）の共通履修率（単位数基準）は 20—30%弱で，同時期の他学部と対照的な履修動向を示している。

しかし2001年度以降、科目の単位編成変更を含めカリキュラム改訂を繰り返すなかで、専門科目の履修単位数は増減を経つつも傾向的には減少し、科目数も減少傾向を辿った。他方共通科目は、科目数・単位数共に増加傾向にあり、共通履修率は2006年度入学生で40%を超え、2007年度入学生では50%に達するほどになっている。

このような変化がどの程度カリキュラム改訂と関連しているか、特にカリキュラム改訂と専門科目の減少・共通科目の増加ということとの関連は、他の学部ほど明確ではない。

(v) 外語英語学科生の修学状況

外語英語学科生の初年次修学状況は図-13の通りである。

1999年度入学生まで専門科目の増加・共通科目の減少(科目数・単位数共に)が続いた後、専門科目の履修は2005年度入学生まで、9科目前後・20単位前後で安定的に推移している。他方共通科目は、2002年度入学生まで科目数・単位数共減少を続けるが、2003年度入学生で科目数は増加するものの単位数はほとんど変わらず(共通科目改訂の影響)、その後はまた微減の状況が続いている。専門・共通の履修割合で言えば、やや共通科目に重きを置いた共通履修率55%前後という数値で、安定的に推移していた。

それが2006年度入学生に至ると、他の学部とは逆に、専門科目の増加・共通科目の減少という状況を生じる。特に専門科目の「履修単位数」の増加が顕著であり、共通履修率は40%を下回るに至った。これは、「初期段階での集中学修」という「語学学修プロセス」の徹底化を図った2006年度改訂の結果と見ることができる。共通科目の改訂以上に専門科目の全面改訂が学生の履修動向により強く作用したことの現れである。

(vi) 外語露語学科生の修学状況

外語露語学科生の初年次修学状況は図-14の通りである。

2001年度入学の法学部生と同様の急激な変化が、2003年度入学生において生じている。

これは、学科教育の目標・独自性を明確に定め、科目ごとの目標を明示するなど意欲的改訂が図られた2003年度カリキュラム改訂の結果であることは明白である。共通科目のロシア語を専門科目のロシア語に併合の上再編、演習科目も充実するなど、ほとんどの学生にとって初修言語であるロシア語を初期段階で集中学修させるシステムが整えられた。また、その後全学で採用されることになる「 Semester毎の履修上限単位設定」を他の学部学科に先駆けて採用すると同時に、履修上限単位数も引き下げられた。その結果、共通履修率は2002年度以前入学生の65%から2003・2004年度入学生の11%台へと急落することとなった。

その後 2005 年度以降は、共通科目の履修が増加傾向に転じている。その背景として、2006 年度共通科目改訂に伴い、共通科目の「基礎科目」「キャリア科目」、つまり「教養科目」を除いた全ての共通科目を「履修上限単位数」対象科目から除いたことが、考えられる。共通科目群の大半が上限単位対象科目から外されたため、学生たちの共通科目履修が可能となったのである。

以上に見てきたように、初年次生の科目履修状況はカリキュラム改訂と軌を一にする形で変化してきており、その変化の様相も学部学科によって異なっている。各学部学科の専門教育領域に関する学修プロセスに異なったものがある以上、そして学生たちはその提示された教育課程表に沿って学修していく以上、こうした状況はある意味では当然のことかもしれない。少なくとも、その「当然のこと」を事実として確認することは、できた。

(3) 総合科目数・総合単位数の学部学科比較

各学部学科がカリキュラム改訂を繰り返してきた結果、専門科目と共通科目の配分が学部学科によって大きく異なってきた状況は、以上に見てきた。しかしながら、それは総履修科目数・総単位数の「配分」だけの問題に止まらず、総履修科目数・総履修単位数そのものの格差の発生という問題も生みだしている。2005 年度からセメスター制が本格的に実施されていることに鑑み、「セメスター制導入の趣旨・意義」にも関わることなので、今後の検討のための素材提供という意味も込めて、その実態を示しておく。

図-15 は、「学部学科比較」を目的に、2002 年度以降入学生の初年次履修・単位修得状況を、入学年度ごとにまとめたものである。全学部生の平均的状況は先に図-7 で示したが、図-7 は図-15 の「全学」の部分の時系列に整理したものであると承知願いたい。

図-15 によれば、2002 年度入学生ではそれほど大きくなかった学部学科間の履修科目数・履修単位数の格差（4 科目・4 単位）が、2003～2005 年度入学生では履修科目数格差が拡大し（10 科目以上）、2006・2007 年度入学生では、履修科目数格差は縮小（6 科目弱）したものの、履修単位数格差が拡大している（15 単位前後）。単位修得率の違いもあって、修得単位数に至っては年々拡大し、履修単位数以上に学部学科間の格差が拡大している。「全学平均」は最早「全体の平均像」を示し得ないような状況にある。

こうした状況に立ち至った背景には、カリキュラム改訂の過程で生じた「セメスター制」に関する認識の違いと、「履修上限単位数」に対する認識の違いがあるように思われる。学生に対して「セメスター制」の趣旨を、「1 学期の中で少数の授業科目を集中的に履修し半期毎に完結させる制度」と説明している（『学生生活のてびき』）。「半期完結」はほぼ

実現されている。しかし、「少数の授業科目を集中的に履修」という点はどうか。セメスターごとの履修状況は別の機会に譲るが、年度でみた履修科目数が減っているとは言えない状況である。先に学部学科別のカリキュラム改訂でも見たように、むしろ「科目増」の方向で進んできている（「通年4単位」→「半期2単位」）のが現状である。「通年4単位科目」が「半期4単位科目」に転じたとき、あるいは「履修上限単位数の引き下げ」が果たされたときこそ、「セメスター制の趣旨」が実現するのではないだろうか。

この方向での改訂が明確に行われたのは経済学部（2004年度改訂）と外語露語学科（2003年度改訂）であるが、その後の経過を辿ると、両者は対照的な動きを見せている。

経済学部は2004年度改訂で「半期2単位科目」を「半期4単位科目」に統合し、2005年度には初年次履修上限単位数の引き下げを行った。その結果2005年度入学生以降、履修科目数・履修単位数とも減少した。このことによる「学習効果の向上」が期待された（セメスター制の目的）のであるが、修得単位数は期待されたほどには伸びず、単位修得率も低下してしまった。「1年次40単位・2年次40単位」でスタートした「履修上限単位数」であったが、2年次の上限単位数を44単位に引き上げざるを得なかったのである。「セメスター制の趣旨」を最大限生かそうとした試みは、現実の前に修正を余儀なくされた。

外語露語学科の場合は、2003年度改訂で初年次2単位科目を、年次配当を廃止した上で「半期4単位」科目に再編し、「半期10単位」科目さえ開設した。その結果、2003年度入学生の履修科目数は激減したのである。しかし、その後履修科目数は徐々に増加し、履修単位数も増加、「履修上限単位数の対象から除外される科目」が格段に広げられたことにより、2006年度入学生の履修単位数は55単位を超えるに至った。経済学部生との履修単位数の差は15単位以上になった。「履修上限単位数44単位」はいわば有名無実化してしまった。

以上のことから、「実態上の偏差・格差」が度重なるカリキュラム改訂の結果生じたこと、「修正」がまた別の面に「格差」を生んでいくこと、少なくともこのことだけは確認できる。専門領域の学修プロセスに関する考え方の相違が専門科目配置、単位編成、履修上限単位数と除外科目、卒業要件等の違いを生んでいるとすれば、「実態上の偏差・格差」の存在は「学部学科の独自性」としてむしろ是認しうることである。しかし、「格差の是正・縮小」を図るのであれば、「格差」の源・原因となっている領域での相互諒解と調整が先決事項である。その過程で「共通科目の存在意義」が改めて問われることになるはずである。

(4) 補論—専門科目・共通科目履修の内部構成について

現在、科目群名称・内容が同一ないし類似科目群でありながら専門科目と共通科目双方で開設されている科目群が存在している。当該科目が専門科目で開設されているか、共通科目として開設されているかによって、これまで見てきた「共通履修率」に大きな差が出る。特に「学部内充足」を強力に推し進めてきた法学部の場合（文化学部および経済学部についても）、共通履修率が他の学部に比べ低く出るのは、ここに原因がある。そこで、これまでの検討の「補足」的意味を込めて、共通・専門の一部科目群についてその内部構成を示しておく。

図-16は、共通科目を「外国語科目」群、「共通A」、「教養科目」群に分類し、科目群ごとの履修状況を6ヵ年度について示したものである⁴⁾。経済・法学・文化学部生の2005年度入学生までに注目して見てみると、文化学部生は共通科目の履修は記載の科目群では「教養科目」のみで、外国語科目の履修はなく、経済学部生もほとんどが「教養科目」で、2000年度カリキュラム改訂後は外国語科目の履修はほぼ消滅した。法学部生の場合は、2001年度カリキュラム改訂によって、「共通A」科目が消え、共通科目全体の履修単位数が激減する中で、共通科目の履修は「教養科目」に集中していった。他の3セクターに比べると「外国語科目」の単位数の少なさ、加えて法学部生にあっては「教養科目」の履修単位数の少なさが際立っている。

これらの共通科目群の履修が少ないことは、これらの学部の学生たちが「外国語系科目」や「教養系科目」を履修していないことを意味するわけでは決してない。学部学科別修学状況を検討した際に紹介したように、従来共通科目として展開されてきたものを「専門科目」として展開するようになったため、「共通科目履修」から「専門科目履修」に移行したと捉えた方が適切である。そのことを示したのが表-5である。

経済学部生は、2000年度カリキュラム改訂により「共通（基礎）科目の外国語4単位以上」という卒業要件が廃止され、同時に専門科目として「外国語（英語）関連科目」も開設された。学生たちは自らの意志で外国語科目の履修・非履修を決めることができ、また共通科目で履修するか、専門科目で履修するかも自由となった。その結果は表-5に見るとおり、1999年度以前にはほぼ全員が「共通科目の外国語」を履修していた（1997年度の外国語履修者率は99.7%）が、2000年度以降は履修者率が20%以下に低下し、履修単位数も1単位以下に激減した。それに反し「学部内開設の英語関連科目群」の履修者率

4) 2005年度入学生までは、集計に際して、「体育」、「外国人留学生に関する科目」、外語英語学科の「共通科目V類」科目、外語露語学科の「情報科目」等を除外したため、構成比の合計が100%になっていない。2006・2007年度入学生については課程表の科目分類にしたがって、図示の科目群のみを抽出した。

は、選択科目でありながら学生の3/4前後がこれら科目を履修、履修単位数も4単位弱を維持し続けた。「共通科目の外国語」から「専門科目の英語」に移行したことは、この数字によって裏付けられる。文化学部生の外国語科目履修についても、同様に、「外国語科目」の履修は専門科目によって充足されている（履修者率92—100%、履修単位数4—8単位）。また、2006年度共通科目カリキュラム改訂および2007年度文化学部カリキュラム改訂を経ることによって、経済学部生にも文化学部生にも、「専門科目の外国語科目」履修が減少し「共通科目の外国語科目」履修が増加するという新たな状況が生じている。いずれにせよ、「共通科目の外国語科目」履修の少なさが「外国語科目」履修の少なさを意味しているわけではないことは、確認できる。

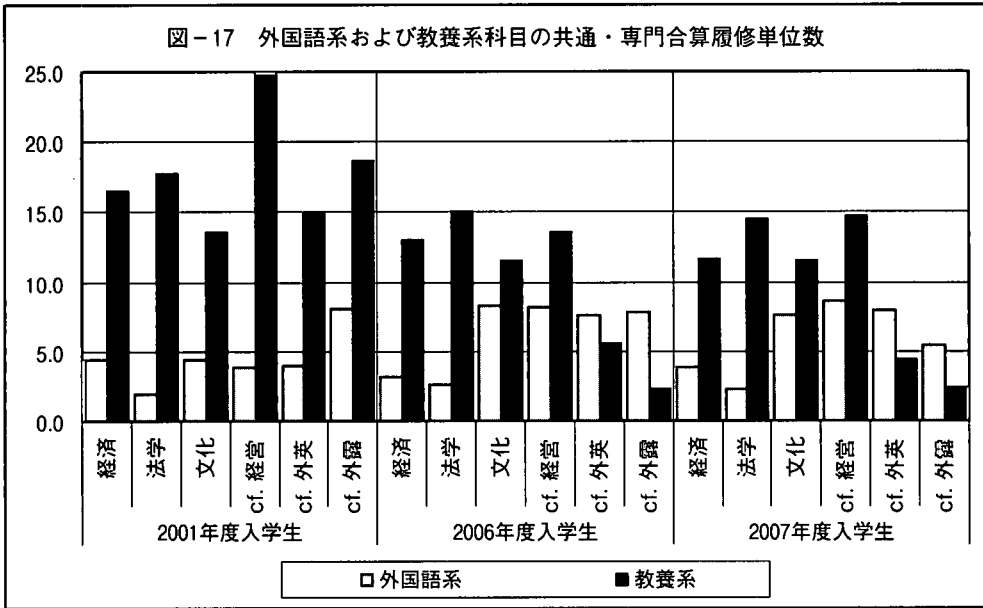
法学部生については「外国語履修」と「教養科目履修」の両面が問題として存在していたが、外国語履修について見れば、経済学部生とほぼ同様の傾向が見られる。「教養科目」については、どうか。

法学部生の場合、先に見たように2000年度以前入学生の共通科目全体の履修率（共通履修率）が高かったが、表-5の内訳からみると、「共通A」科目群の履修に依るところが大きい。法学部生の「共通A」履修者率は高く、単位数も法学部生全体の平均で6—8単位（共通科目履修単位数の20—30%）、履修者のみ限れば8単位を超えている。2001年度改訂で「共通A」科目群が専門科目の「基幹2」科目群に移行した。「基幹2」科目群は「共通A」科目群をほぼ吸収した上、教養系の科目を拡充して成り立っている。2001年度以降入学生の「基幹2」科目群の履修者率は極めて高く、履修単位数も10単位前後にのぼることを考慮すれば、他学部他学科に比べ「共通科目履修の少ないこと」が「共通科目系科目の履修の少ないこと」と同じではないのである。

こうした3学部の事情を考慮して、外国語系および教養系の科目群について共通科目・専門科目を合算した履修単位数を図示したものが、図-17である。

外国語系科目では法学部生がなお少単位数に止まっているとはいえ、教養系科目では3学部では法学部生がむしろ上回っている。参考までに経営・外語英語・外語露語生の状況も併せ図示した。近年の状況を見れば、卒業要件の関係で文化学部生・経営学部生の外国語系科目の履修単位数が多いが、経済・法学・文化・経営学部生の教養系科目の履修単位数は10—15単位の幅に収まっている。ここではむしろ、「初期段階での集中学修」を特徴とする「語学学修プログラム」に沿った、外国語学部生の教養系科目の履修単位数の少なさが、特徴的に現れている。

以上のように、科目群名称・内容が同一ないし類似科目でありながら専門科目と共通科目双方で開設されている科目群の履修状況を検討することによって、単純に専門科目・共



通科目に分類して修学状況を見た場合とは実態が異なることが確認できた。学部学科ごとのカリキュラム改訂と共通科目のカリキュラム改訂がいわば別個の形で実施され、必ずしも有機的に連動することなく行われてきた結果が、ここに現れている。特定科目の専門科目と共通科目との間での配置換えにより「形式的な構成」が変化することが問題なのではない。専門科目と共通科目それぞれの学修プログラム上の意味を明確にし、個別科目の配置についてはその設置趣旨を明らかにして科目群に位置づけるという、困難ではあるが重要な作業が求められる。

以上、初年次生の修学状況を、その背景となるカリキュラム改訂にも触れながら、見てきたが、この状況が2年次生、3年次生へとどのように積み上げられていったか、簡単に見ておくこととする。

3 入学後2年間・3年間・4年次生の修学状況

入学後2年間、3年間と時間を経ることによって、初年次の修学状況（全体としての履修・単位修得状況、共通・専門別の配分）が増幅される場合もあれば、修正されていく場合もある。実態としてどのようになっているか、本稿ではその点だけに限定して、2年間・3年間および4年次生の修学状況を概観しておきたい。

まず図-18は、学部生全体の入学後2年間（1年次と2年次の合計）の修学状況を時系列で見たものである。共通科目と専門科目の履修が対照的な動きを見せているのは、1年次生の場合と同様である（図-8参照）。下の「総合（共通・専門合算）」図には、「2年間の共通履修率」推移（折線グラフ）とともに、比較の意味で「初年次の共通履修率」を示しておいた。2本の折線グラフを比較すると、何れの年度の入学生とも、「2年間の共通履修率」が下方に位置している。2年次になると専門科目履修が増加し、共通科目の履修が減ることを示している。また、折線グラフの間隔が、以前は比較的安定していたが、近年はその間隔が縮小したり拡大したりと、安定性を欠くに至っている。相次ぐカリキュラム改訂の結果であろう。そのことは、図-18の下図と同様の趣旨で学部学科ごとの状況を図示した図-19を参照すれば、理解できよう。2本の折線グラフの間隔の広さ、高さ、変化の度合い、それぞれに異なっている。これら図-19に示される異なる事情の相互作用の結果が図-18に現れたと見ることができよう。

以上の2年間の修学状況図に倣って、3年間の修学状況を示したものが図-20と図-21である。2年間の修学状況とほぼ同様の傾向が見て取れよう。図-19と図-21に現れる学部学科ごとの動向にほとんど違いはなく、学生たちが、初年次生の修学状況を見た際に検討したカリキュラム改訂の内容、学修プログラムに沿って、科目履修していることがよくわかる。例えば、経営学部は、ごく少数の限定された入門・基礎の必修科目から始まって2年次以降の「段階的専門学修」を重視するシステムを採用していた。実際、2年間、3年間と学修を進める中で、共通履修率は60%台から40%台へ、そして30%台へと低下しているのである。逆に、初修言語でもあるロシア語を初期段階で集中学修させるシステムを徹底させた外語露語学科生は、初年次段階ではほとんど共通科目を履修しなかった（共通履修率10%台）。それが2年間、3年間と学修を積み重ねる過程で共通科目の履修を増やし、年々共通履修率を高めて（共通履修率の折線グラフの上方へのシフト）、3年間の累積では30%台半ばに達しているのである。他の学部学科に見られない特異な修学状況を見せている。また、「授業科目の学部内充足」を強く意識した法学部の学修システムの下、法学部生の「専門科目偏重」は2年間、3年間と時間を経過しても、その状況に変化は見られない。

このように、それぞれの学部学科の学修システムにしたがって学生たちは、それぞれ異なった経過を辿りながら大学での学修を積み重ねている。その総合的結果が札幌大学学部生の修学状況として図-18および図-20に現れているのであるが、ここにはいまひとつ、初年次の修学状況の検討の際にもした「修得単位数の減少」、履修単位数の減少以上のテンポで進む修得単位数の減少という状況が生じている。2年間の総修得単位数はほぼ80

単位という水準から70単位を割る水準へ、3年間の総修得単位数では115単位水準から100単位台半ばの水準へ低下してきている。単に平均修得単位数が低下してきているということに止まらず、図-22に示されるように、単位数別構成に変化が現れているのである。3年間で130単位を超える単位数を修得するような層の減少はともかく、昨今の就職シーズンの早まりを考慮すると、110単位以下の層が増加しているという事実は、注目に値する。

そうした懸念を一方では抱かせる3年間の修学状況ではあるが、その3年間の修学状況が「4年目の修学状況」へと直結する。一方では3年間で卒業要件をほぼ満たしてしまう学生たちが出現すると同時に、他方では多数の単位を履修・単位修得しなければ卒業が覚束ない学生たちも存在する。その4年次生（入学後4年目の学生）の修学状況を示したものが、図-23と表-6である。4年次履修単位数が10単位以下の学生が20%程度存在する一方、30単位超履修する学生も30—35%存在する。2年間・3年間の状況を考慮すれば、後者の層は今後増加することも推測される。但し、平均履修単位数は3年次までに比べ少ないことは事実である。また、共通履修率は概ね3年間の状況の延長線上にあるが、共通科目を全く履修しない層が40%前後、4単位以下が60%前後に達するのは4年次履修の特徴である。

初年次の状況を受ける形で2年間、3年間、そして4年次の修学状況を見てきたが、こうして4年間にわたって積み上げられてきた科目履修、そして単位修得の結果が、先に見た図-4~6の修得単位数分布だったのである。このように学生の修学状況を検討してみると、初年次の修学状況の重要性、「出発点」の重みが改めて実感できる。2年目、3年目、そして4年目の修学を見透しつつ、的確なプログラムを学生に提供すること、そのために十分な議論を尽くし、我々自身も地道な検証を積み上げていくことが、いま求められているのではなかろうか。

む す び

「標準学生の修学状況」の検討を通じて明白になった事実は、僅かこの10年の間だけでも学生たちの修学状況（履修科目・履修単位・修得単位等）はかなりの変化を見ていること、学部学科によってもかなりの違いがあることである。そしてその背後に「カリキュラム改訂」があることもほぼ確証を得ることができた。学部学科内での議論・審議の結果実施された「カリキュラム改訂」により、学部学科間の、また入学年度間の違いが現出したとすれば、そうした「違い」に関する「的確な評価」が要求される。「カリキュラム変更」

の狙いと結果に関する評価，その上で「狙い」自体の相互評価，こうした地道な検討を経て、「入学年度・学部学科間の違い」の認識を共有し，相互了解できれば，将来の「教育の協同作業」が果たされるはずである。本稿がその素材となれば幸いである。

なお，本稿では調査対象学生を「標準学生」に限定したために，実際の入学生・在籍学生と調査対象学生との間に相当な数の開きが生じている⁵⁾。特に1年次・2年次という学生生活の初期段階で修学に躓いてしまった学生たちの状況は，この「標準学生の修学実態」からだけでは読み取れない。修学上の課題，特に修得単位不足・成績不振学生の動向を探り，その要因，修学指導上のヒント等を得るためには，全入学生を対象とした調査が必要である。また，進級留年・卒業留年を経験した学生たちの修学状況についても，同様のことが言える。こうした学生以外にも，「標準学生」の枠から外れてしまった学生たちが存在する。本学各学部には夫々，多数の「編入学生」も在籍している。通常の経路とは異なる学修過程を経て本学で学ぶ学生たちの動向も，貴重なデータである。データに表れない効果・メリットはともかく，編入学生の修学実態も把握しておく必要がある。今後の課題である。

より正確な修学実態を把握する上での課題はこのように多々あるが，「標準学生」以外の学生も含めた「全入学生」の，特に1・2年次生の修学実態については，稿を改め近々に発表したいと考えている。

5) 「入学年度成績収録学生」数に対する「標準学生」数の比率は，1997—1999年度入学生で91—98%，2000—2002年度入学生で86—90%，2003—2005年度入学生で83—85%となっている。

表-1 入学年度別の修学状況総括表

入学年度	学部学科	学生数 構成比	履修科目数			履修単位数			修得単位数		
			共通	専門	総合	共通	専門	総合	共通	専門	総合
1997年度	1 経済	24.6	17.6	29.0	46.6	63.3	101.3	164.6	51.9	78.7	130.7
	2 経営	25.8	14.7	29.4	44.1	51.3	111.1	162.4	41.9	89.5	131.5
	3 法学	20.4	22.6	25.1	47.7	79.1	95.6	174.7	63.4	75.4	138.8
	4 文化	19.1	8.9	41.7	50.7	34.3	128.9	163.3	27.6	104.1	131.7
	5 外英	7.1	18.5	34.3	52.7	61.4	104.8	166.2	51.4	89.0	140.4
	6 外語	3.0	20.8	25.8	46.6	69.0	94.8	163.8	55.5	82.4	137.9
	全学	100.0	16.4	31.0	47.4	57.9	108.0	165.9	47.1	86.5	133.6
1998年度	1 経済	26.9	18.2	39.1	57.3	64.5	103.6	168.1	51.7	76.1	127.8
	2 経営	28.1	15.3	28.7	44.0	53.4	108.3	161.7	43.0	87.1	130.1
	3 法学	19.9	22.3	26.1	48.4	78.5	99.4	177.9	62.3	74.4	136.7
	4 文化	14.3	9.6	41.0	50.6	36.9	127.3	164.2	32.1	104.5	136.6
	5 外英	7.5	17.0	35.9	52.9	59.0	107.8	166.8	49.7	91.3	141.0
	6 外語	3.4	20.9	25.9	46.8	70.0	95.0	164.9	57.7	82.9	140.6
	全学	100.0	17.0	33.2	50.2	60.0	107.5	167.5	48.6	84.3	132.9
1999年度	1 経済	27.5	17.7	47.9	65.6	62.9	108.1	171.0	48.9	78.4	127.3
	2 経営	26.6	15.9	28.7	44.6	55.5	106.9	162.4	42.8	87.0	129.8
	3 法学	19.9	22.3	25.5	47.7	78.2	97.2	175.4	63.0	74.1	137.1
	4 文化	15.2	9.6	42.8	52.5	37.2	133.2	170.3	30.7	104.7	135.4
	5 外英	7.4	16.4	36.5	53.0	55.9	109.5	165.4	45.5	92.5	138.0
	6 外語	3.5	20.7	26.2	46.9	68.7	96.4	165.1	56.3	84.5	140.8
	全学	100.0	16.9	36.0	52.9	59.8	109.1	168.9	47.3	85.1	132.4
2000年度	1 経済	25.9	18.1	55.5	73.6	58.4	113.5	171.9	44.8	82.3	127.2
	2 経営	28.9	16.7	29.2	46.0	54.7	108.5	163.3	41.9	85.7	127.7
	3 法学	21.2	25.2	27.3	52.5	79.2	103.1	182.3	61.2	74.7	136.0
	4 文化	13.8	11.1	41.6	52.7	37.4	128.9	166.3	29.4	103.5	132.9
	5 外英	7.5	16.2	36.3	52.6	54.7	108.5	163.3	47.6	93.2	140.8
	6 外語	2.7	23.0	27.3	50.3	72.9	94.4	167.2	52.7	79.7	132.4
	全学	100.0	18.2	37.8	56.1	59.0	111.1	170.1	45.8	85.4	131.1
2001年度	1 経済	27.7	21.6	55.1	76.7	59.8	112.6	172.4	43.9	80.2	124.2
	2 経営	28.4	19.2	53.2	72.4	56.8	109.6	166.5	42.0	83.3	125.3
	3 法学	16.6	7.3	43.5	50.8	21.4	154.7	176.0	16.7	116.8	133.5
	4 文化	16.0	14.7	41.0	55.7	42.2	122.9	165.1	32.5	95.3	127.8
	5 外英	7.5	16.3	35.7	51.9	55.0	104.3	159.3	47.8	93.1	140.9
	6 外語	3.8	25.5	29.8	55.3	70.5	97.2	167.8	52.3	82.0	134.3
	全学	100.0	17.2	47.9	65.1	49.8	119.2	169.0	37.7	90.6	128.3
2002年度	1 経済	23.6	26.6	56.0	82.5	60.2	114.9	175.1	42.2	81.9	124.1
	2 経営	29.1	21.5	51.8	73.3	54.3	107.0	161.3	41.1	83.2	124.3
	3 法学	18.5	7.6	45.1	52.6	18.5	157.9	176.3	14.1	122.2	136.3
	4 文化	18.8	20.5	39.9	60.4	48.2	117.4	165.6	35.3	92.0	127.3
	5 外英	7.3	19.6	36.2	55.8	53.0	107.8	160.8	44.5	91.7	136.2
	6 外語	2.8	31.1	28.9	59.9	71.2	92.1	163.2	51.0	78.6	129.6
	全学	100.0	20.1	47.5	67.6	48.3	119.9	168.2	35.8	92.2	128.1
2003年度	1 経済	22.8	32.2	51.2	83.4	62.9	106.2	169.2	47.9	83.0	130.9
	2 経営	29.4	29.6	51.9	81.4	57.9	107.3	165.2	45.1	85.1	130.2
	3 法学	16.1	11.1	44.9	56.1	21.3	154.1	175.3	16.4	121.4	137.7
	4 文化	20.7	23.5	36.5	60.1	46.3	119.6	165.9	34.4	95.2	129.6
	5 外英	7.8	23.7	36.4	60.2	52.0	104.7	156.7	46.8	93.5	140.3
	6 外語	3.3	30.0	26.5	56.4	57.1	100.9	158.0	44.5	87.0	131.5
	全学	100.0	25.5	45.4	70.9	50.3	116.7	167.0	39.0	93.3	132.3
2004年度	1 経済	22.1	32.7	33.7	66.4	64.1	105.0	169.1	45.3	82.4	127.7
	2 経営	25.3	30.2	51.3	81.5	59.0	106.4	165.3	42.8	84.1	126.9
	3 法学	20.4	9.1	49.8	58.9	16.8	163.6	180.5	11.2	119.2	130.4
	4 文化	21.1	23.5	36.2	59.7	45.7	118.1	163.8	31.7	93.6	125.3
	5 外英	9.0	22.6	37.9	60.4	49.1	105.5	154.7	42.3	94.2	136.5
	6 外語	2.1	35.0	27.2	62.3	66.6	100.2	166.9	38.1	85.8	124.0
	全学	100.0	24.4	42.2	66.6	48.0	120.0	168.0	34.4	93.9	128.3

札幌大学学生の修学状況について

表-2 学部学科別の修学状況総括表

学部学科	入学年度	学生数 構成比	履修科目数			履修単位数			修得単位数		
			共通	専門	総合	共通	専門	総合	共通	専門	総合
全学	1997年度	100.0	16.4	31.0	47.4	57.9	108.0	165.9	47.1	86.5	133.6
	1998年度	100.0	17.0	33.2	50.2	60.0	107.5	167.5	48.6	84.3	132.9
	1999年度	100.0	16.9	36.0	52.9	59.8	109.1	168.9	47.3	85.1	132.4
	2000年度	100.0	18.2	37.8	56.1	59.0	111.1	170.1	45.8	85.4	131.1
	2001年度	100.0	17.2	47.9	65.1	49.8	119.2	169.0	37.7	90.6	128.3
	2002年度	100.0	20.1	47.5	67.6	48.3	119.9	168.2	35.8	92.2	128.1
	2003年度	100.0	25.5	45.4	70.9	50.3	116.7	167.0	39.0	93.3	132.3
	2004年度	100.0	24.4	42.2	66.6	48.0	120.0	168.0	34.4	93.9	128.3
経済学部	1997年度	31.0	17.6	29.0	46.6	63.3	101.3	164.6	51.9	78.7	130.7
	1998年度	26.9	18.2	39.1	57.3	64.5	103.6	168.1	51.7	76.1	127.8
	1999年度	27.3	17.7	47.9	65.6	62.9	108.1	171.0	48.9	78.4	127.3
	2000年度	25.9	18.1	55.5	73.6	58.4	113.5	171.9	44.8	82.3	127.2
	2001年度	27.7	21.6	55.1	76.7	59.8	112.6	172.4	43.9	80.2	124.2
	2002年度	23.6	26.6	56.0	82.5	60.2	114.9	175.1	42.2	81.9	124.1
	2003年度	22.8	32.2	51.2	83.4	62.9	106.2	169.2	47.9	83.0	130.9
	2004年度	22.1	32.7	33.7	66.4	64.1	105.0	169.1	45.3	82.4	127.7
経営学部	1997年度	25.8	14.7	29.4	44.1	51.3	111.1	162.4	41.9	89.5	131.5
	1998年度	28.1	15.3	28.7	44.0	53.4	108.3	161.7	43.0	87.1	130.1
	1999年度	26.4	15.9	28.7	44.6	55.5	106.9	162.4	42.8	87.0	129.8
	2000年度	28.9	16.7	29.2	46.0	54.7	108.5	163.3	41.9	85.7	127.7
	2001年度	28.4	19.2	53.2	72.4	56.8	109.6	166.5	42.0	83.3	125.3
	2002年度	29.1	21.5	51.8	73.3	54.3	107.0	161.3	41.1	83.2	124.3
	2003年度	29.4	29.6	51.9	81.4	57.9	107.3	165.2	45.1	85.1	130.2
	2004年度	25.3	30.2	51.3	81.5	59.0	106.4	165.3	42.8	84.1	126.9
法学部	1997年度	20.4	22.6	25.1	47.7	79.1	95.6	174.7	63.4	75.4	138.8
	1998年度	19.9	22.3	26.1	48.4	78.5	99.4	177.9	62.3	74.4	136.7
	1999年度	19.8	22.3	25.5	47.7	78.2	97.2	175.4	63.0	74.1	137.1
	2000年度	21.2	25.2	27.3	52.5	79.2	103.1	182.3	61.2	74.7	136.0
	2001年度	16.6	7.3	43.5	50.8	21.4	154.7	176.0	16.7	116.8	133.5
	2002年度	18.5	7.6	45.1	52.6	18.5	157.9	176.3	14.1	122.2	136.3
	2003年度	16.1	11.1	44.9	56.1	21.3	154.1	175.3	16.4	121.4	137.7
	2004年度	20.4	9.1	49.8	58.9	16.8	163.6	180.5	11.2	119.2	130.4
文化学部	1997年度	19.1	8.9	41.7	50.7	34.3	128.9	163.3	27.6	104.1	131.7
	1998年度	14.3	9.6	41.0	50.6	36.9	127.3	164.2	32.1	104.5	136.6
	1999年度	15.1	9.6	42.8	52.5	37.2	133.2	170.3	30.7	104.7	135.4
	2000年度	13.8	11.1	41.6	52.7	37.4	128.9	166.3	29.4	103.5	132.9
	2001年度	16.0	14.7	41.0	55.7	42.2	122.9	165.1	32.5	95.3	127.8
	2002年度	18.8	20.5	39.9	60.4	48.2	117.4	165.6	35.3	92.0	127.3
	2003年度	20.7	23.5	36.5	60.1	46.3	119.6	165.9	34.4	95.2	129.6
	2004年度	21.1	23.5	36.2	59.7	45.7	118.1	163.8	31.7	93.6	125.3
外語英語 学科	1997年度	7.1	18.5	34.3	52.7	61.4	104.8	166.2	51.4	89.0	140.4
	1998年度	7.5	17.0	35.9	52.9	59.0	107.8	166.8	49.7	91.3	141.0
	1999年度	7.3	16.4	36.5	53.0	55.9	109.5	165.4	45.5	92.5	138.0
	2000年度	7.5	16.2	36.3	52.6	54.7	108.5	163.3	47.6	93.2	140.8
	2001年度	7.5	16.3	35.7	51.9	55.0	104.3	159.3	47.8	93.1	140.9
	2002年度	7.3	19.6	36.2	55.8	53.0	107.8	160.8	44.5	91.7	136.2
	2003年度	7.8	23.7	36.4	60.2	52.0	104.7	156.7	46.8	93.5	140.3
	2004年度	9.0	22.6	37.9	60.4	49.1	105.5	154.7	42.3	94.2	136.5
外語露語 学科	1997年度	3.0	20.8	25.8	46.6	69.0	94.8	163.8	55.5	82.4	137.9
	1998年度	3.4	20.9	25.9	46.8	70.0	95.0	164.9	57.7	82.9	140.6
	1999年度	3.5	20.7	26.2	46.9	68.7	96.4	165.1	56.3	84.5	140.8
	2000年度	2.7	23.0	27.3	50.3	72.9	94.4	167.2	52.7	79.7	132.4
	2001年度	3.8	25.5	29.8	55.3	70.5	97.2	167.8	52.3	82.0	134.3
	2002年度	2.8	31.1	28.9	59.9	71.2	92.1	163.2	51.0	78.6	129.6
	2003年度	3.3	30.0	26.5	56.4	57.1	100.9	158.0	44.5	87.0	131.5
	2004年度	2.1	35.0	27.2	62.3	66.6	100.2	166.9	38.1	85.8	124.0

図-1 学部学科別の4年間の共通・専門別履修状況

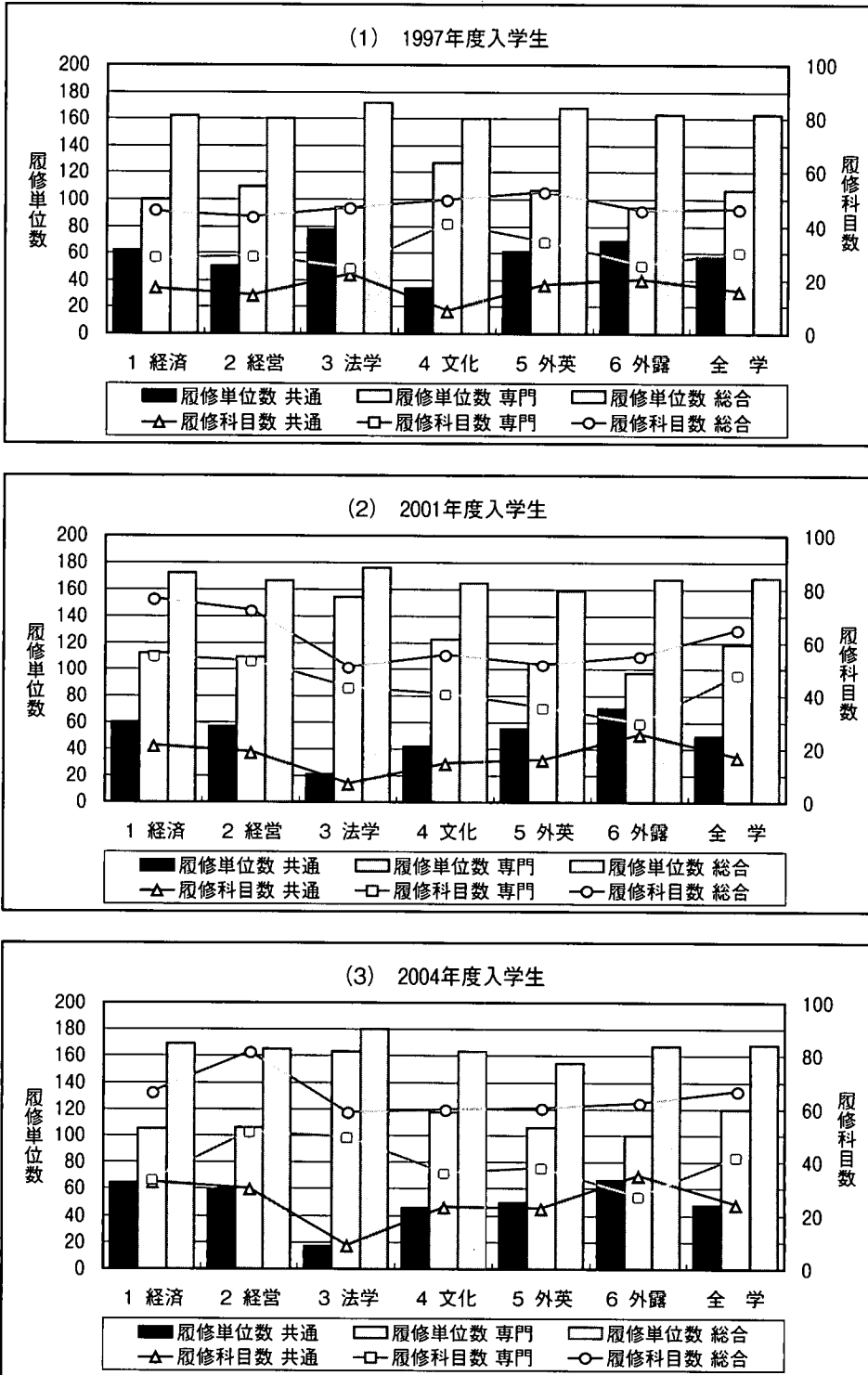


図-2 4年間の共通・専門別履修の推移（入学年度別）

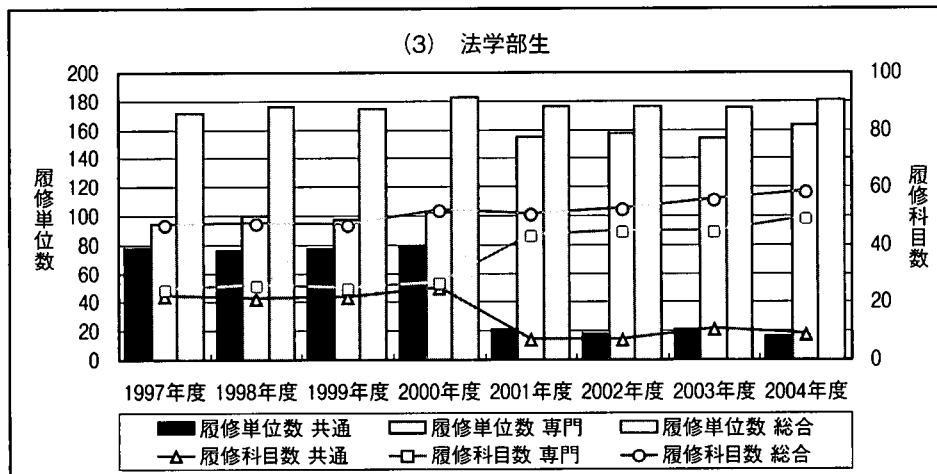
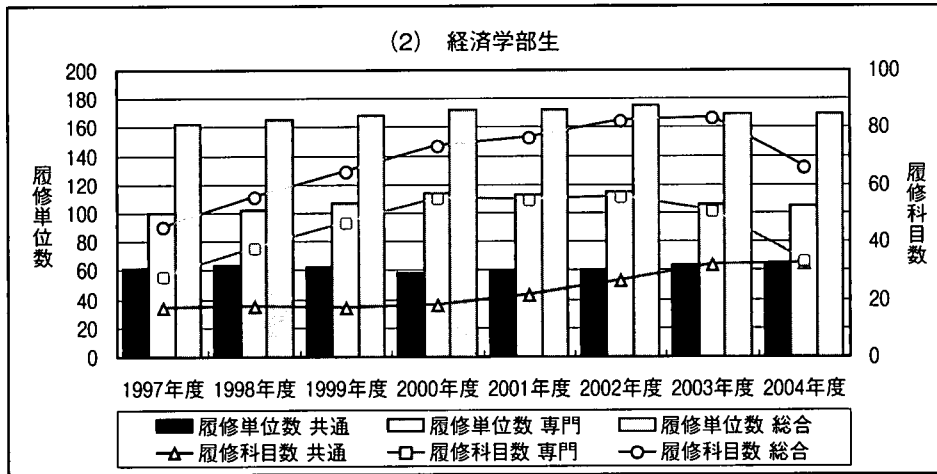
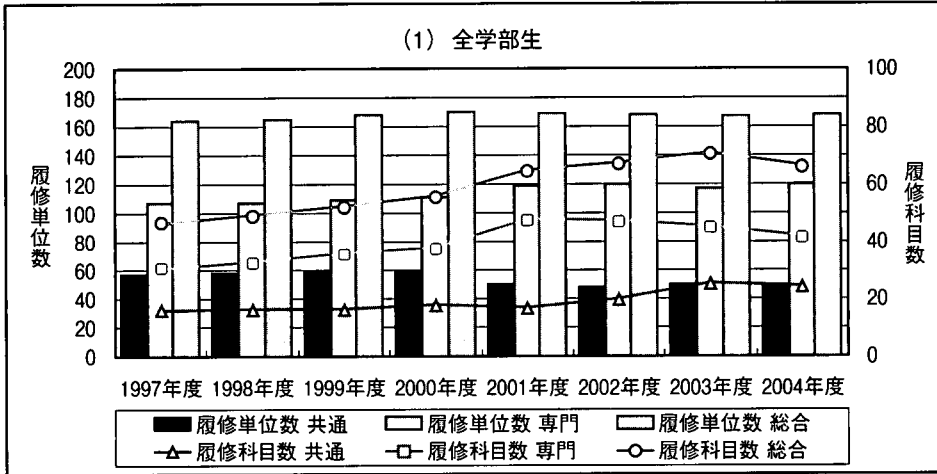


図-4 1997年度入学生の4年間の共通・専門別単位修得状況

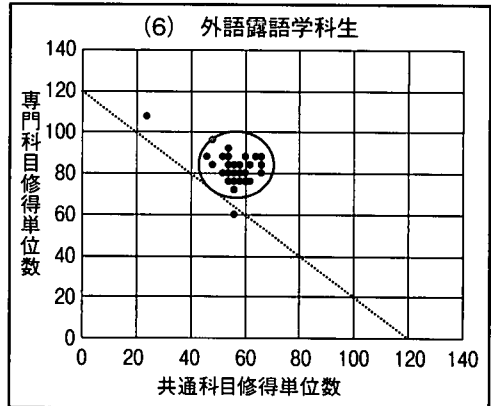
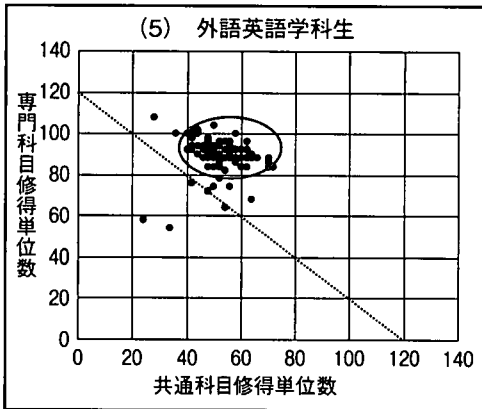
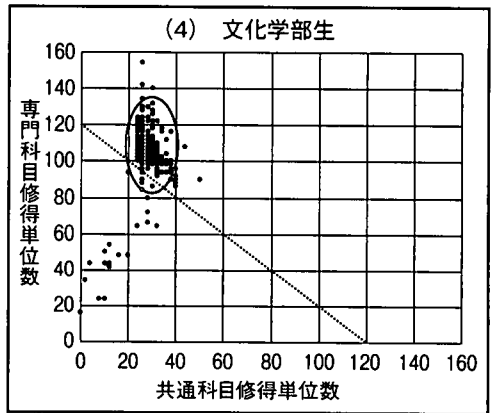
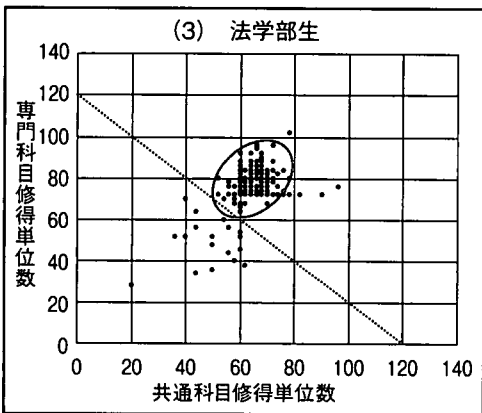
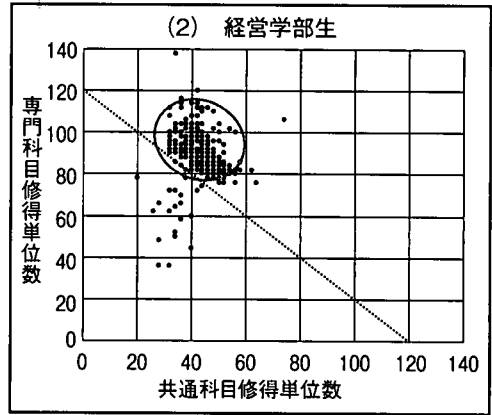
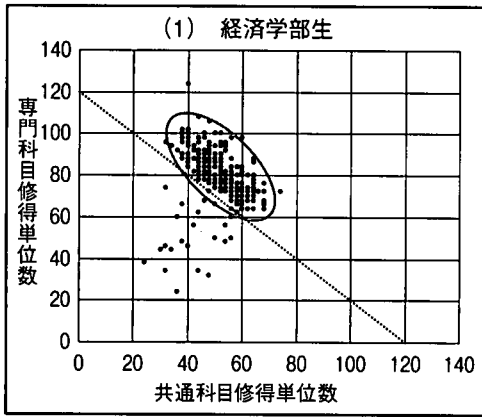


図-5 2001年度入学生の4年間の共通・専門別単位修得状況

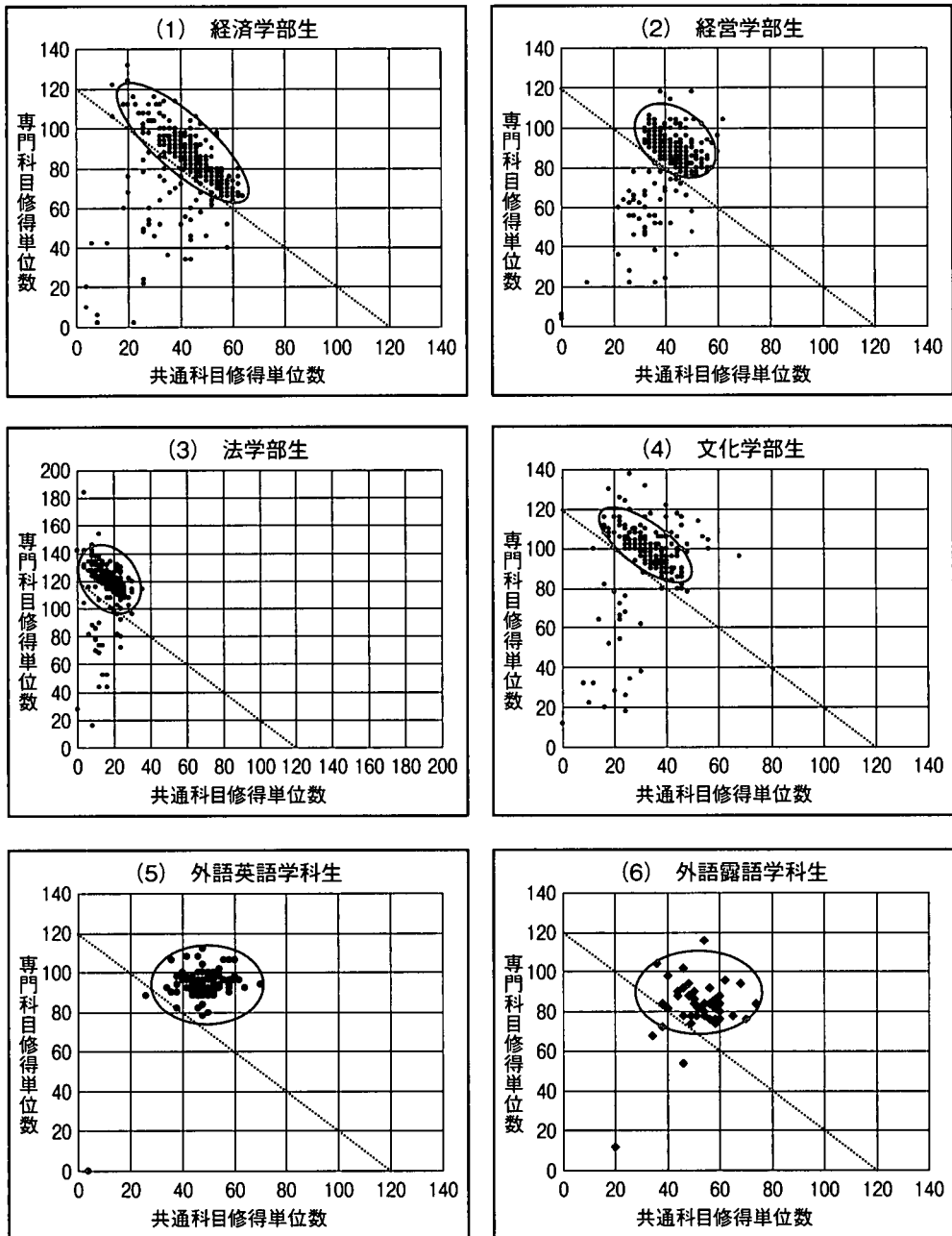
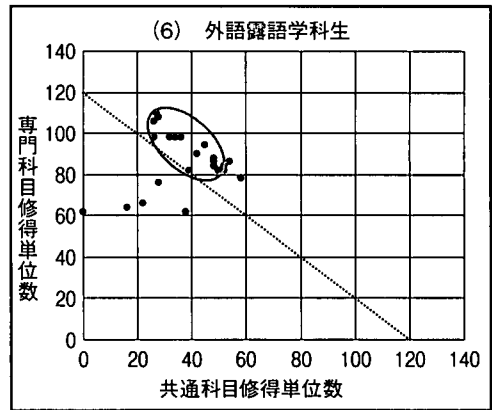
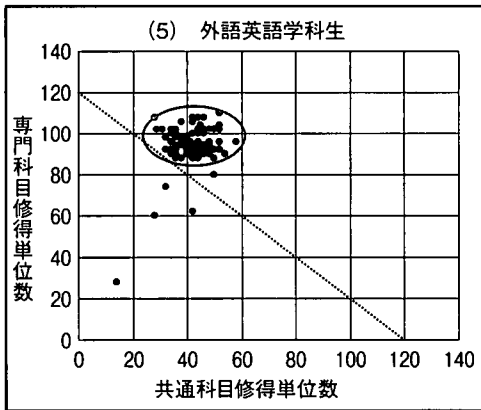
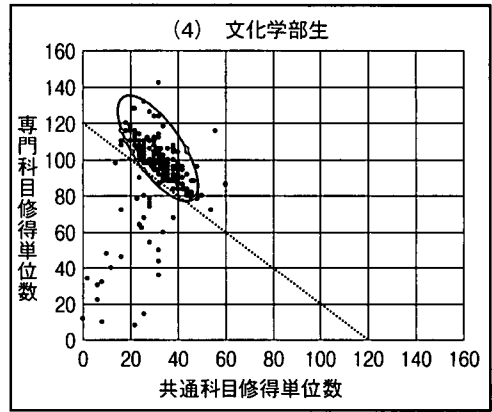
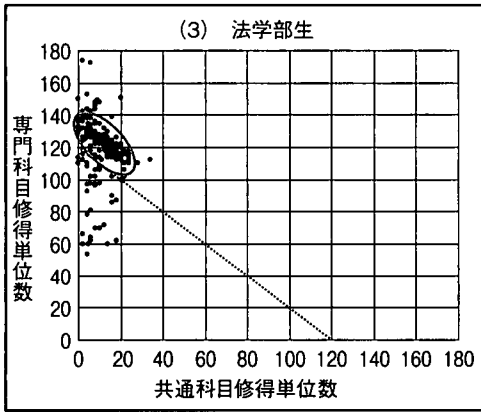
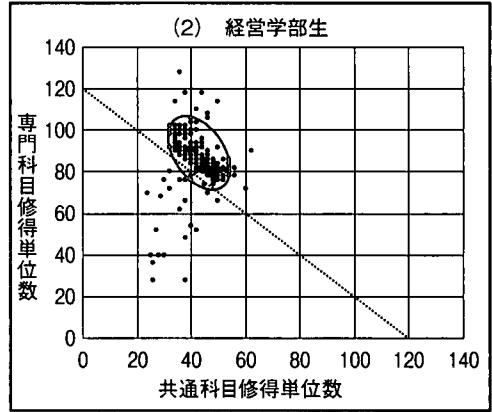
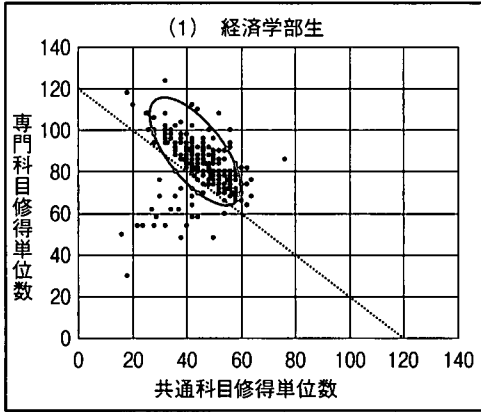


図-6 2004年度入学生の4年間の共通・専門別単位修得状況



札幌大学学生の修学状況について

表-3 入学初年次生の入学年度別修学状況

入学年度	学部・学科	共通科目				専門科目				総合(共通科目+専門科目)			
		履修科目数	履修単位数	修得単位数	修得率	履修科目数	履修単位数	修得単位数	修得率	履修科目数	履修単位数	修得単位数	修得率
1997	1 経済	7.60	24.75	21.77	88.0	5.61	20.49	16.87	82.3	13.21	45.25	38.65	85.4
	2 経営	9.64	33.15	27.69	83.5	4.33	14.67	12.60	85.9	13.98	47.81	40.29	84.3
	3 法学	8.50	26.62	21.12	79.3	3.99	15.95	12.89	80.8	12.49	42.57	34.01	79.9
	4 文化	2.57	9.44	8.27	87.6	13.16	32.06	28.86	90.0	15.73	41.50	37.13	89.5
	5 外英	10.11	30.16	26.25	87.0	6.85	15.35	14.00	91.2	16.96	45.51	40.25	88.5
	6 外語	10.00	29.15	25.23	86.6	6.00	16.00	13.79	86.2	16.00	45.15	39.02	86.4
	全学	7.60	24.90	21.02	84.4	6.49	19.77	16.95	85.7	14.09	44.66	37.96	85.0
1998	1 経済	7.72	25.02	21.37	85.4	5.29	19.74	15.28	77.4	13.01	44.77	36.65	81.9
	2 経営	9.76	33.68	27.96	83.0	4.23	14.46	12.25	84.7	13.99	48.14	40.21	83.5
	3 法学	8.79	27.19	23.16	85.2	3.99	15.96	13.43	84.2	12.78	43.14	36.59	84.8
	4 文化	3.21	12.18	10.83	88.9	12.18	30.33	27.76	91.5	15.40	42.51	38.59	90.8
	5 外英	8.58	27.94	25.07	89.7	8.27	17.16	15.64	91.1	16.85	45.10	40.70	90.2
	6 外語	10.15	29.58	25.58	86.5	6.00	16.00	13.79	86.2	16.15	45.58	39.38	86.4
	全学	8.01	26.43	22.49	85.1	5.96	18.70	15.82	84.6	13.97	45.12	38.31	84.9
1999	1 経済	7.64	24.63	19.82	80.5	5.51	20.36	14.51	71.2	13.15	44.99	34.33	76.3
	2 経営	9.35	32.04	25.41	79.3	4.92	15.83	13.38	84.5	14.26	47.87	38.79	81.0
	3 法学	8.90	27.08	22.70	83.8	3.99	15.96	12.39	77.7	12.89	43.04	35.09	81.5
	4 文化	2.89	10.75	9.39	87.3	13.16	33.70	29.47	87.4	16.05	44.45	38.85	87.4
	5 外英	8.39	26.77	22.81	85.2	8.77	19.02	17.21	90.5	17.16	45.79	40.02	87.4
	6 外語	10.04	29.32	25.56	86.6	6.00	16.00	15.32	86.2	16.04	45.32	40.88	86.4
	全学	7.76	25.30	20.72	84.4	6.47	20.05	16.28	85.7	14.23	45.36	37.00	85.0
2000	1 経済	4.80	17.35	15.53	89.5	13.80	27.61	20.23	73.3	18.61	44.96	35.76	79.5
	2 経営	9.13	31.37	25.12	80.1	4.93	15.85	12.86	81.1	14.05	47.23	37.99	80.4
	3 法学	8.85	27.46	21.79	79.3	3.99	15.96	12.19	76.4	12.85	43.43	33.98	78.2
	4 文化	3.40	12.85	11.53	89.8	12.07	30.29	26.79	88.4	15.48	43.13	38.32	88.8
	5 外英	8.26	26.56	24.35	91.6	8.70	18.69	17.04	91.1	16.96	45.25	41.38	91.4
	6 外語	9.79	29.33	23.54	80.2	6.00	16.00	15.13	94.6	15.79	45.33	38.67	85.3
	全学	7.11	23.94	19.96	83.4	8.33	21.13	16.92	80.1	15.44	45.07	36.88	81.8
2001	1 経済	4.80	17.66	15.43	87.4	13.71	27.42	19.30	70.4	18.51	45.08	34.73	77.0
	2 経営	8.68	29.77	24.88	83.6	9.13	18.26	15.84	86.7	17.81	48.03	40.71	84.8
	3 法学	3.05	10.94	9.46	86.4	11.24	36.66	31.14	84.9	14.29	47.60	40.59	85.3
	4 文化	3.94	14.93	13.57	90.8	10.32	28.37	23.26	82.0	14.26	43.30	36.82	85.0
	5 外英	7.68	25.10	22.40	89.3	9.00	19.85	17.77	89.5	16.68	44.94	40.17	89.4
	6 外語	9.85	29.58	24.49	82.8	6.00	16.00	14.08	88.0	15.85	45.58	38.57	84.6
	全学	5.88	20.56	17.69	86.1	10.81	25.50	20.59	80.8	16.69	46.06	38.29	83.1
2002	1 経済	4.77	17.42	14.06	80.7	14.02	28.04	20.71	73.9	18.78	45.46	34.77	76.5
	2 経営	8.58	29.25	21.89	74.8	9.10	18.21	16.29	89.5	17.69	47.46	38.19	80.5
	3 法学	2.98	9.72	8.36	86.0	11.34	37.49	31.09	82.9	14.32	47.21	39.46	83.6
	4 文化	4.22	16.23	13.97	86.1	10.11	26.51	22.29	84.1	14.33	42.74	36.26	84.9
	5 外英	7.61	24.58	22.23	90.4	9.09	20.33	19.42	95.5	16.70	44.91	41.65	92.7
	6 外語	9.62	28.92	25.19	87.1	6.00	16.00	14.92	93.2	15.62	44.92	40.11	89.3
	全学	5.78	20.05	16.96	84.6	10.78	25.74	21.39	83.1	16.56	45.80	38.35	83.7
2003	1 経済	10.71	20.68	15.64	75.6	12.34	24.69	19.63	79.5	23.06	45.37	35.27	77.8
	2 経営	15.73	30.83	24.73	80.2	9.20	18.39	16.32	88.7	24.93	49.23	41.04	83.4
	3 法学	5.62	10.59	8.15	76.9	11.09	36.23	29.49	81.4	16.71	46.82	37.64	80.4
	4 文化	7.43	14.59	11.74	80.5	9.20	28.72	24.31	84.6	16.63	43.31	36.05	83.2
	5 外英	10.96	24.94	21.47	86.1	8.86	19.41	18.19	93.7	19.82	44.35	39.66	89.4
	6 外語	3.28	5.28	4.43	83.9	8.00	40.00	36.95	92.4	11.28	45.28	41.38	91.4
	全学	10.47	20.60	16.38	79.5	10.15	25.62	21.67	84.6	20.62	46.23	38.05	82.3
2004	1 経済	9.56	18.52	14.05	75.9	10.63	26.65	21.10	79.2	20.18	45.17	35.15	77.8
	2 経営	15.56	30.43	24.14	79.3	9.18	18.36	16.12	87.8	24.74	48.79	40.26	82.5
	3 法学	2.79	4.87	3.33	68.3	13.53	42.05	30.11	71.6	16.32	46.92	33.44	71.3
	4 文化	6.27	12.02	9.24	76.9	10.02	30.79	26.22	85.2	16.29	42.81	35.46	82.8
	5 外英	10.78	24.15	21.66	89.7	9.05	19.74	18.47	93.6	19.82	43.89	40.13	91.4
	6 外語	3.52	5.60	4.24	75.7	10.00	44.00	40.16	91.3	13.52	49.60	44.40	89.5
	全学	8.98	17.61	13.87	78.8	10.57	28.32	22.93	81.0	19.55	45.92	36.80	80.1

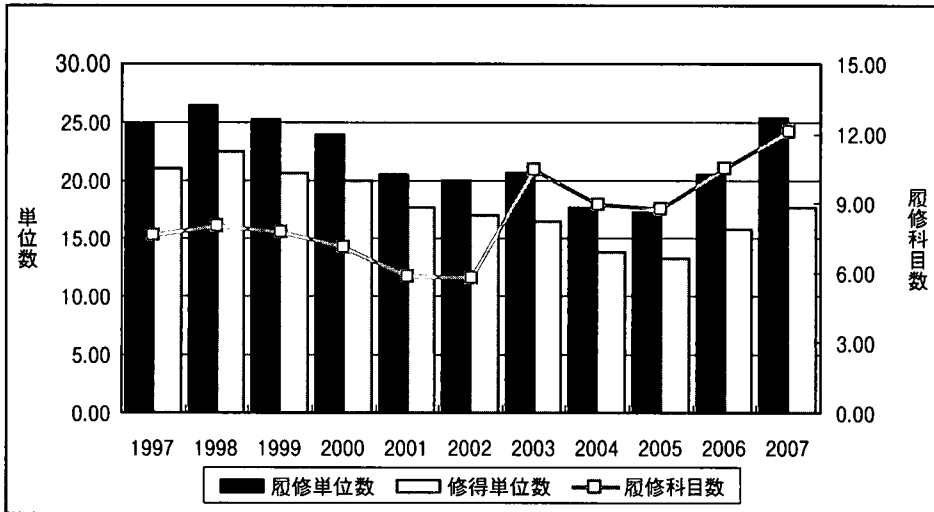
岩 堀 洋 士

(表-3 続)

入学 年度	学部・学科	共通科目				専門科目				総合(共通科目+専門科目)			
		履修科 目数	履修単 位数	修得単 位数	修得率	履修科 目数	履修単 位数	修得単 位数	修得率	履修科 目数	履修単 位数	修得単 位数	修得率
2005	1 経済	7.00	13.51	9.78	72.4	10.60	27.59	21.70	78.7	17.60	41.10	31.49	76.6
	2 経営	15.89	31.09	24.02	77.3	8.64	17.28	15.08	87.2	24.53	48.38	39.10	80.8
	3 法学	2.49	4.42	3.48	78.6	13.93	42.78	33.69	78.8	16.41	47.20	37.17	78.7
	4 文化	8.00	15.46	11.20	72.4	8.86	27.33	23.00	84.1	16.86	42.79	34.19	79.9
	5 外英	10.78	24.08	21.63	89.8	9.03	19.54	18.10	92.6	19.81	43.62	39.72	91.1
	6 外語	5.95	10.34	7.74	74.8	7.82	38.79	35.32	91.0	13.76	49.13	43.05	87.6
	全 学	8.77	17.20	13.25	77.0	10.21	27.62	22.77	82.4	18.97	44.83	36.02	80.4
2006	1 経済	10.63	20.83	15.71	75.4	6.62	19.34	14.68	75.9	17.25	40.17	30.39	75.7
	2 経営	14.99	29.52	21.82	73.9	7.64	17.13	12.16	71.0	22.63	46.66	33.98	72.8
	3 法学	6.02	11.73	9.75	83.1	14.63	32.17	24.85	77.2	20.66	43.90	34.60	78.8
	4 文化	9.61	18.63	14.04	75.3	11.10	27.86	24.08	86.5	20.71	46.49	38.12	82.0
	5 外英	10.54	20.27	17.30	85.3	10.62	31.25	26.62	85.2	21.16	51.52	43.92	85.2
	6 外語	9.81	17.94	13.23	73.7	7.00	38.00	33.94	89.3	16.81	55.94	47.16	84.3
	全 学	10.51	20.51	15.75	76.8	9.70	24.56	19.41	79.0	20.21	45.07	35.16	78.0
2007	1 経済	10.54	22.22	15.34	69.0	6.64	19.34	13.94	72.1	17.18	41.56	29.28	70.5
	2 経営	16.68	35.40	23.78	67.2	6.27	14.35	10.66	74.3	22.94	49.75	34.44	69.2
	3 法学	6.45	13.57	9.98	73.5	13.37	30.26	23.15	76.5	19.82	43.84	33.14	75.6
	4 文化	11.43	23.74	16.74	70.5	9.53	24.55	20.25	82.5	20.96	48.29	36.99	76.6
	5 外英	11.62	24.25	18.57	76.6	9.79	29.50	22.93	77.7	21.41	53.75	41.50	77.2
	6 外語	10.43	19.13	14.17	74.1	6.87	36.70	31.83	86.7	17.30	55.83	46.00	82.4
	全 学	12.08	25.39	17.67	69.6	8.41	21.77	16.76	77.0	20.49	47.15	34.44	73.0

図-8 全学部生の初年次修学状況

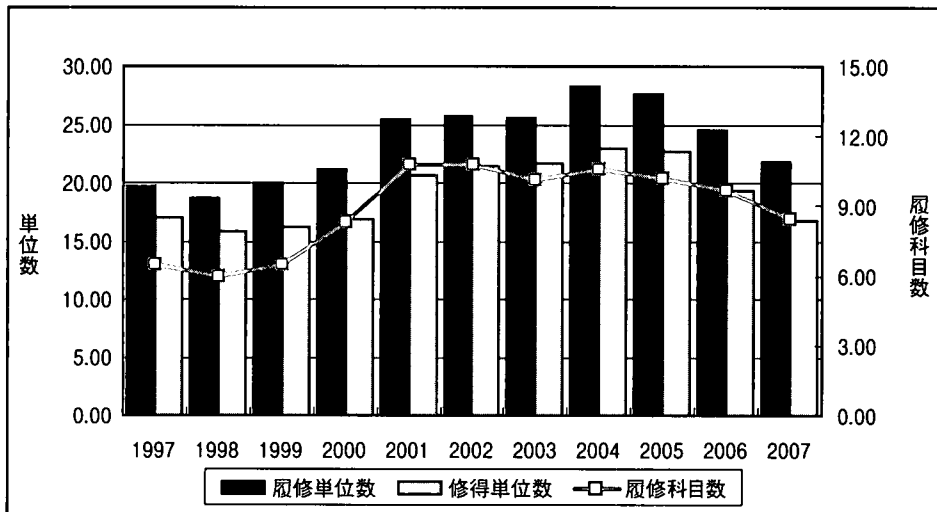
(1) 共通科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	84.4	85.1	84.4	83.4	86.1	77.9	79.5	78.8	77.0	76.8	69.6
共通履修率	55.7	58.6	55.7	53.1	44.6	43.8	44.6	38.3	38.4	45.5	53.8

* 「共通履修率」は単位数基準（共通科目履修単位数／全履修単位数）。以下同じ。

(2) 専門科目の修学状況



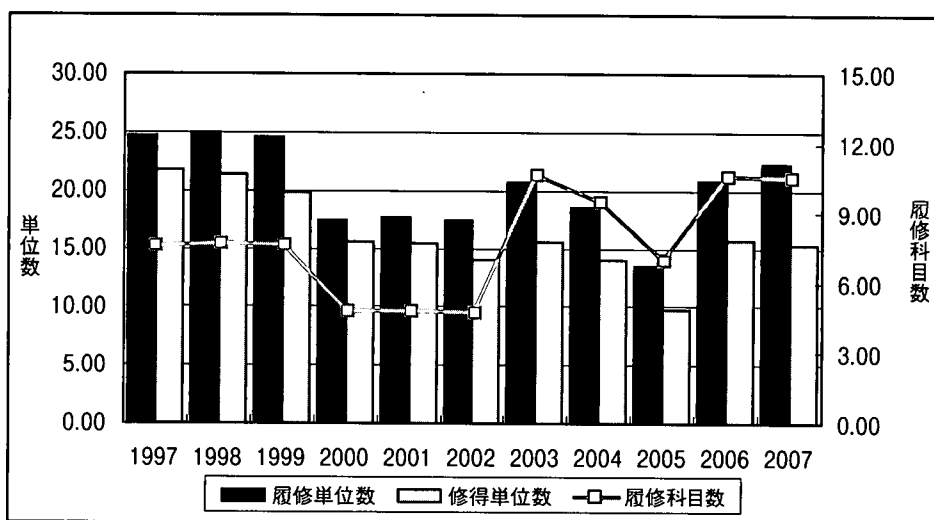
	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	85.7	84.6	85.7	80.1	80.8	83.1	84.6	81.0	82.4	79.0	77.0

表-4 各学部学科のカリキュラム改訂

学部学科	実施年度	改訂要点
経済学部	2000年度	コース制の採用と必修科目の全廃・完全選択化（コース制を除き新カリキュラムを在學生にも適用）、専門演習を除き全科目の「半期2単位」化、英語科目の新設、1・2年次配当専門科目の大幅拡充
	2004年度	コース制廃止、一部科目群の選択必修化、「半期4単位」化等
	2005年度	履修上限単位の厳格化（1年次生は46単位→40単位）
	2006年度	「入門ゼミ」「コンピュータ入門」の共通科目移行
経営学部	2001年度	専門科目の「半期2単位」化
	2004年度	共通科目外国語の卒業必要単位を「4単位→8単位」に増加
	2006年度	1年次必修科目の再編、全科目セメスター配置、共通科目外国語の卒業必要単位数を8単位に引き下げ、「基礎ゼミ」「ユーザ・コンピューティングI」「情報リテラシー実習」の「共通科目」移行
法学部	2001年度	共通A科目の専門科目化、英語・情報関連科目の新設等を含む全面改訂
	2006年度	学科増に伴い全面改訂。「ユニット制」導入、必修科目の再編、「入門演習」の分割（春学期分は共通科目化）、特講科目の拡充（「半期1単位」科目の大幅拡充）等。
文化学部	2001年度	必修科目の軽減化（外国語・情報系科目の選択必修化）
	2003年度	言語系科目の「半期4単位」化
	2006年度	言語系科目も一部「半期2単位」化・専門科目の「半期2単位」化
	2007年度	学科再編に伴い全面改訂。言語系科目「半期4単位」・その他科目「半期2単位」原則。
外語 英語学科	2003年度	共通科目に関連した改訂（共通Aを共通5に。外国語必要単位を8単位→4単位等）
	2006年度	コース制廃止を含め科目編成を全面改訂。専門科目の卒業必要単位数を引き下げ（88単位→72単位）、必修科目も廃止。1年次配当専門科目の大幅拡充と1年次履修上限引き上げ（46単位→「26+26=52」単位）。共通科目の外国語必要単位を4単位→8単位に引き上げ。
外語 露語学科	2003年度	共通科目の「ロシア語入門」の「専門科目」化等を含め科目編成を全面改訂。履修上限単位数の引き下げ（年間46→半期22年間44）
	2006年度	共通科目外国語の範囲拡大、履修上限除外科目の大幅拡大

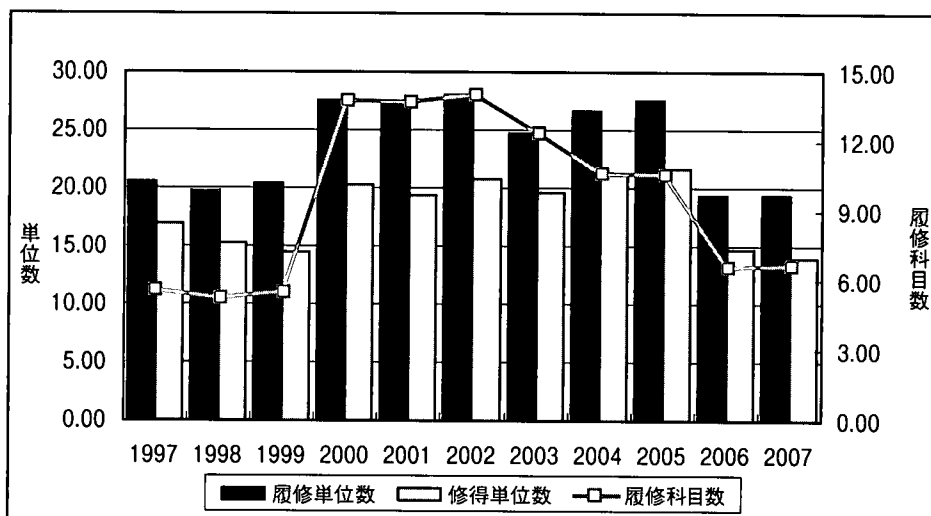
図-9 経済学部生の初年次修学状況

(1) 共通科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	88.0	85.4	80.5	89.5	87.4	80.7	75.6	75.9	72.4	75.4	69.0
共通履修率	54.7	55.9	54.7	38.6	39.2	38.3	45.6	41.0	32.9	51.9	53.5

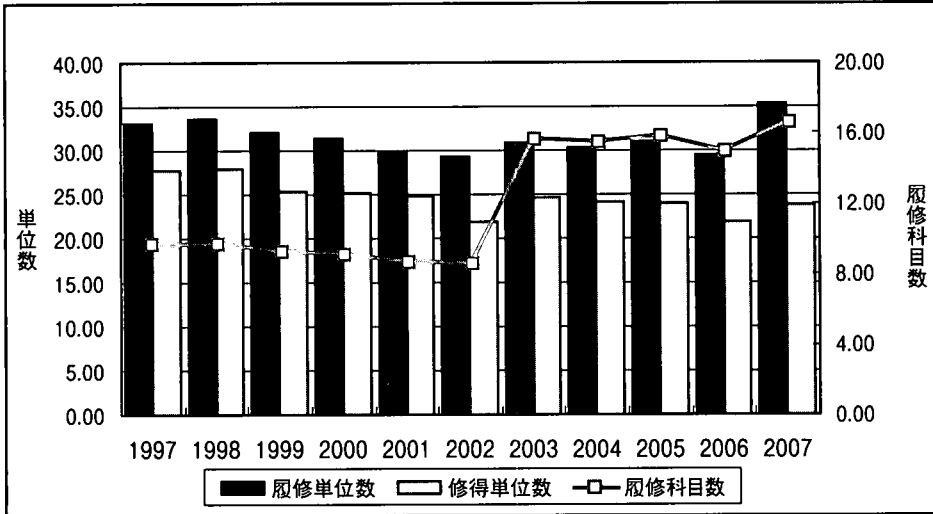
(2) 専門科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	82.3	77.4	71.2	73.3	70.4	73.9	79.5	79.2	78.7	75.9	72.1

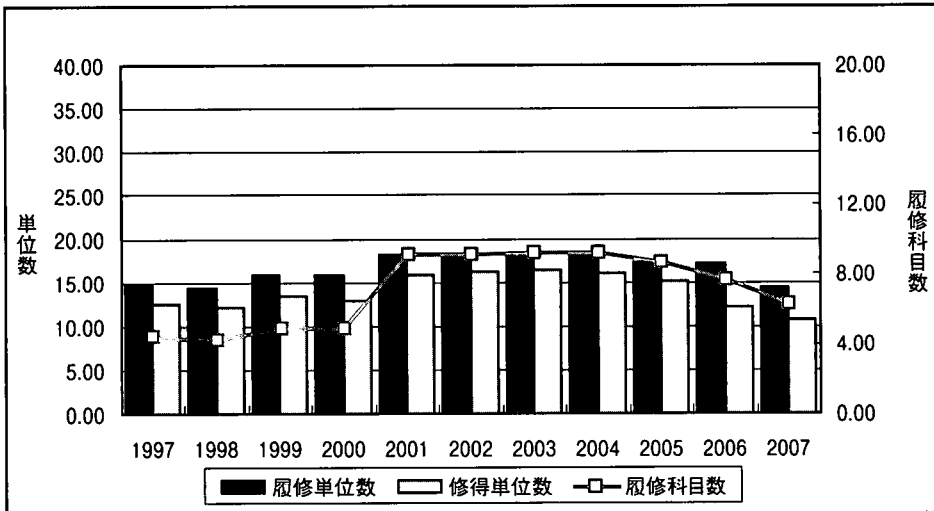
図-10 経営学部生の初年次修学状況

(1) 共通科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	83.5	83.0	79.3	80.1	83.6	74.8	80.2	79.3	77.3	73.9	67.2
共通履修率	69.3	70.0	66.9	66.4	62.0	61.6	62.6	62.4	64.3	63.3	71.2

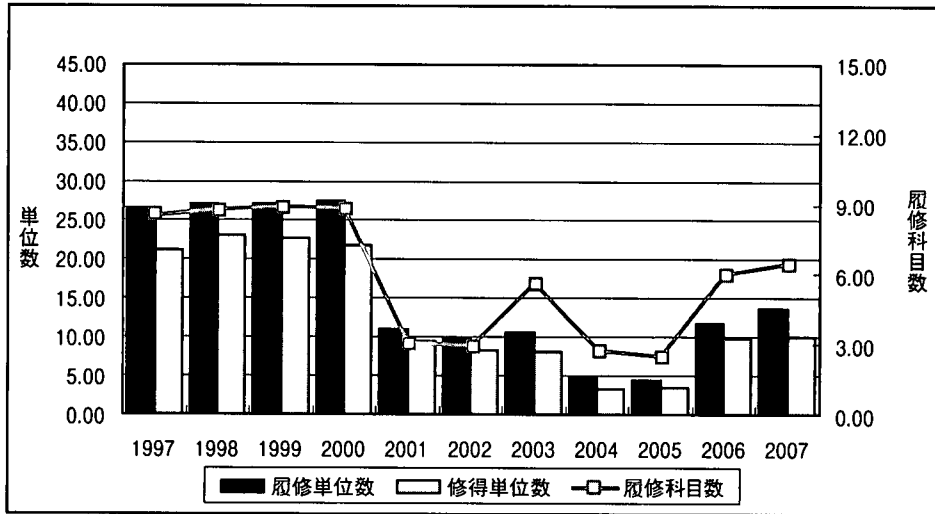
(2) 専門科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	85.9	84.7	84.5	81.1	86.7	89.5	88.7	87.8	87.2	71.0	74.3

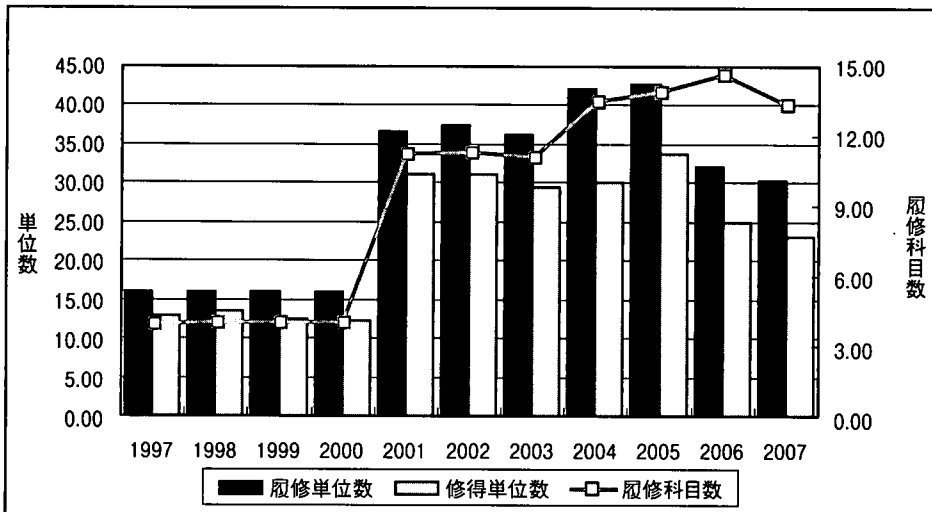
図-11 法学部生の初年次修学状況

(1) 共通科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	79.3	85.2	83.8	79.3	86.4	75.9	76.9	68.3	78.6	83.1	73.5
共通履修率	62.5	63.0	62.9	63.2	23.0	20.6	22.6	10.4	9.4	26.7	31.0

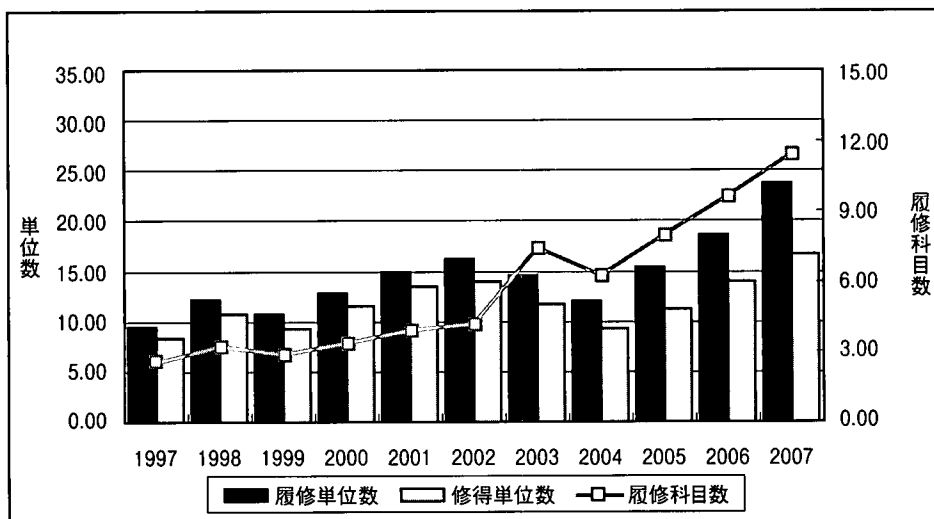
(2) 専門科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	80.8	84.2	77.7	76.4	84.9	82.9	81.4	71.6	78.8	77.2	76.5

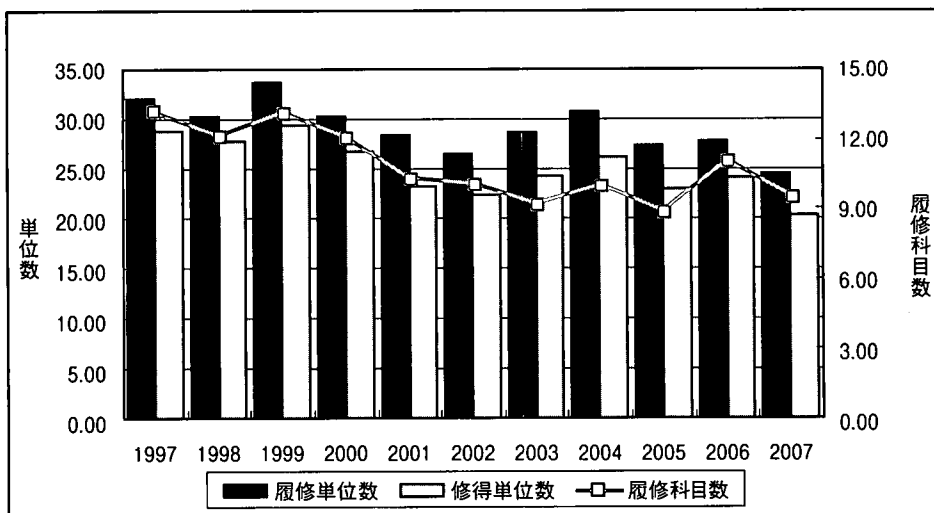
図-12 文化学部生の初年次修学状況

(1) 共通科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	87.6	88.9	87.3	89.8	90.8	84.4	80.5	76.9	72.4	75.3	70.5
共通履修率	22.7	28.7	24.2	29.8	34.5	38.0	33.7	28.1	36.1	40.1	49.2

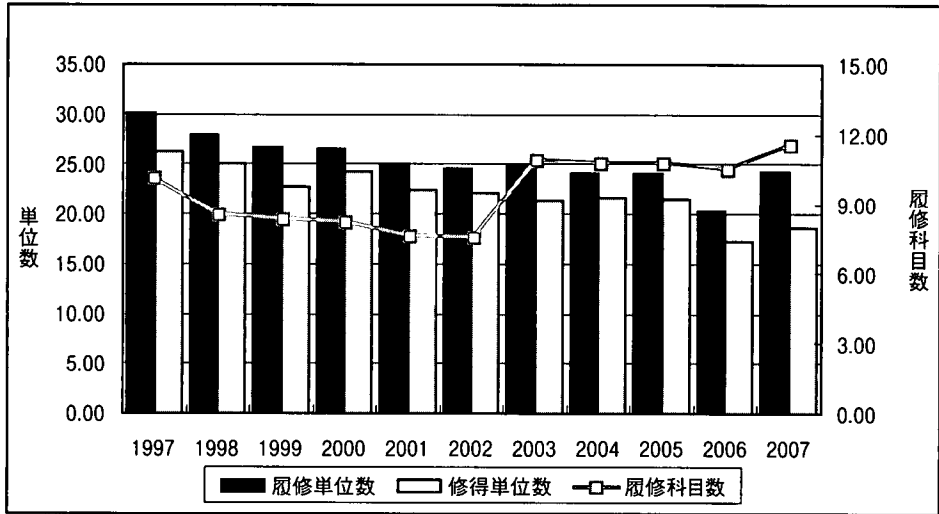
(2) 専門科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	90.0	91.5	87.4	88.4	82.0	84.1	84.6	85.2	84.1	86.5	82.5

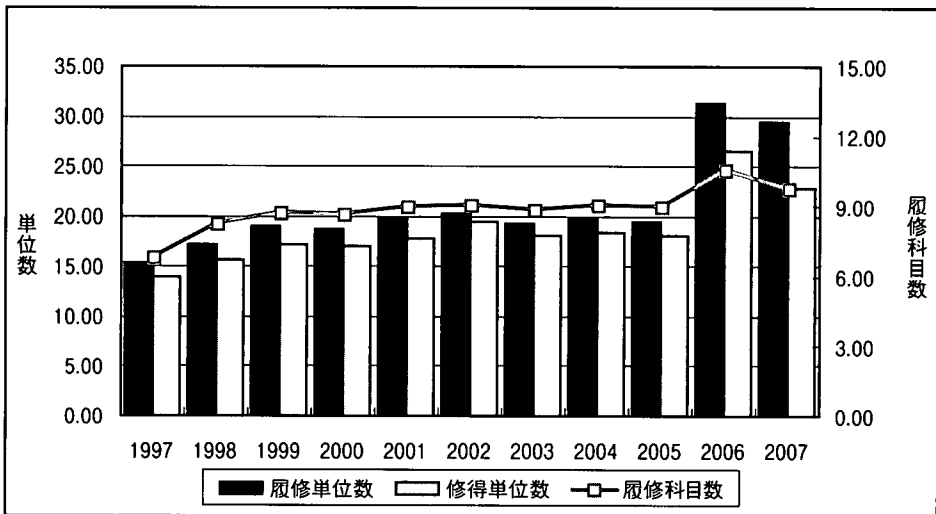
図-13 外語英語学科生の初年次修学状況

(1) 共通科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	87.0	89.7	85.2	91.6	89.3	79.4	86.1	89.7	89.8	85.3	76.6
共通履修率	66.3	62.0	58.5	58.7	55.8	54.7	56.2	55.0	55.2	39.3	45.1

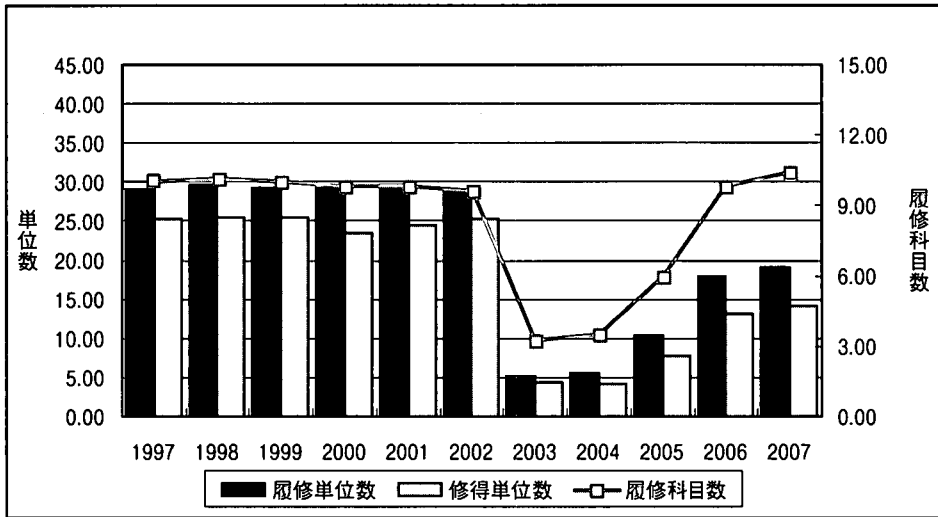
(2) 専門科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	91.2	91.1	90.5	91.1	89.5	95.5	93.7	93.6	92.6	85.2	77.7

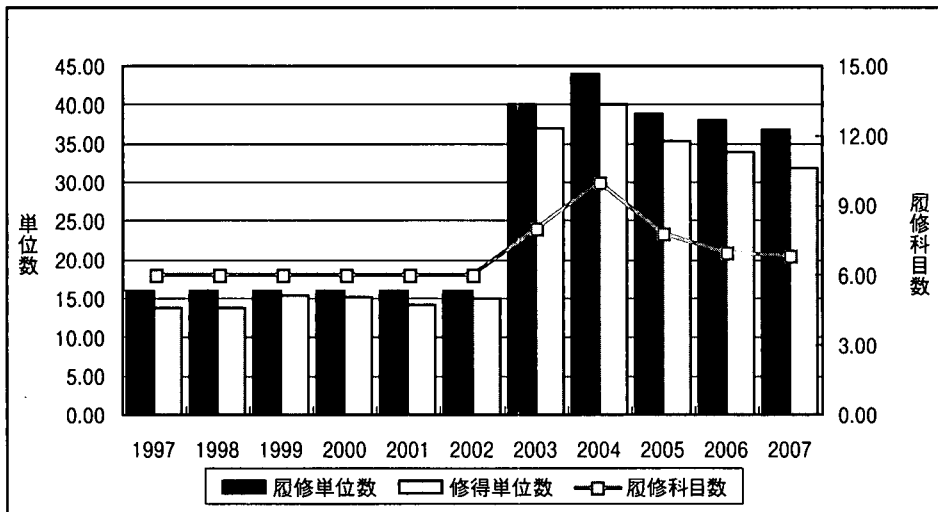
図-14 外語露語学科生の初年次修学状況

(1) 共通科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	86.6	86.5	86.6	80.2	82.8	71.4	83.9	75.7	74.8	73.7	74.1
共通履修率	64.6	64.9	64.6	64.7	64.9	64.4	11.7	11.3	21.0	32.1	34.3

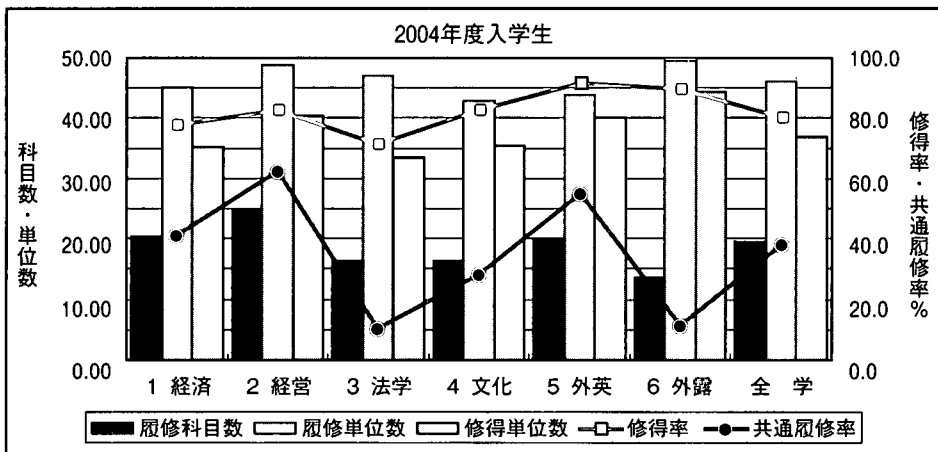
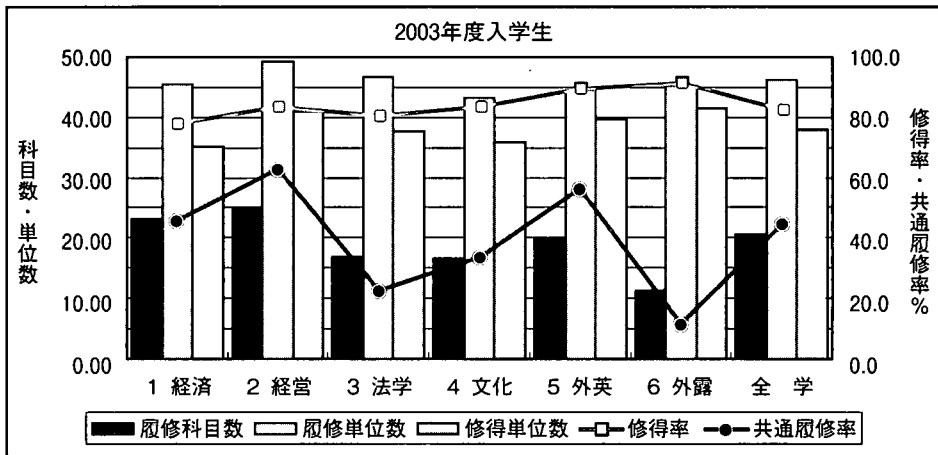
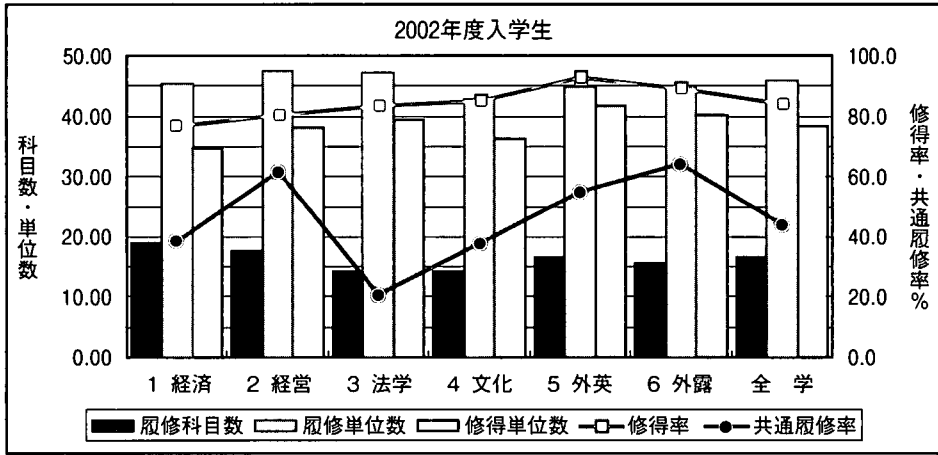
(2) 専門科目の修学状況



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
修得率	86.2	86.2	86.2	94.6	88.0	93.2	92.4	91.3	91.0	89.3	86.7

図-15 入学初年次の修学状況（共通科目・専門科目合算）

(1) 2002-2004年度入学生



注) 「共通履修率」 = 「共通履修単位数 / 総合履修単位数 * 100」

図-15 入学初年次の修学状況（共通科目・専門科目合算）

(2) 2005-2007年度入学生

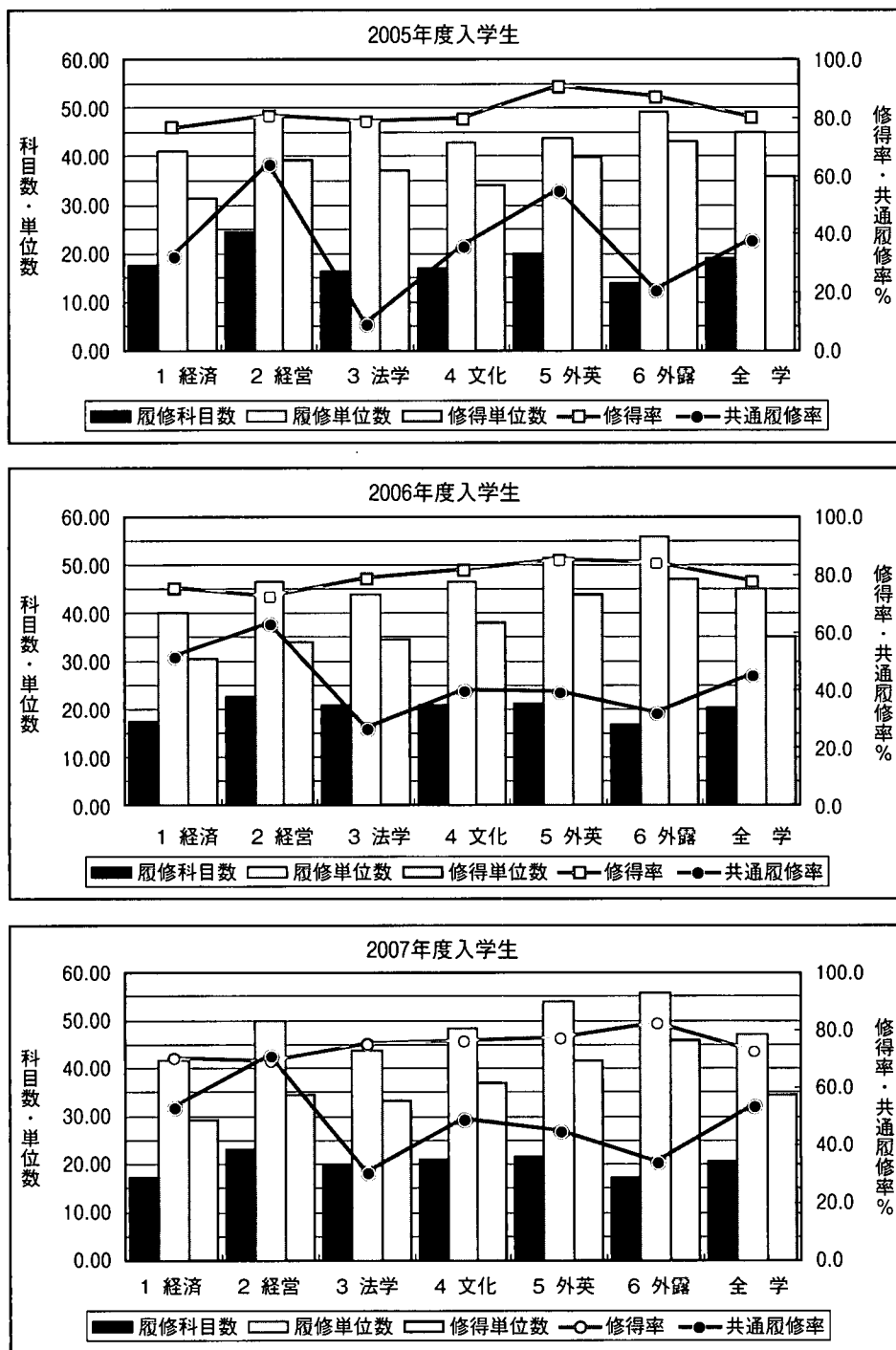


図-16 共通科目の科目群別構成

(1)

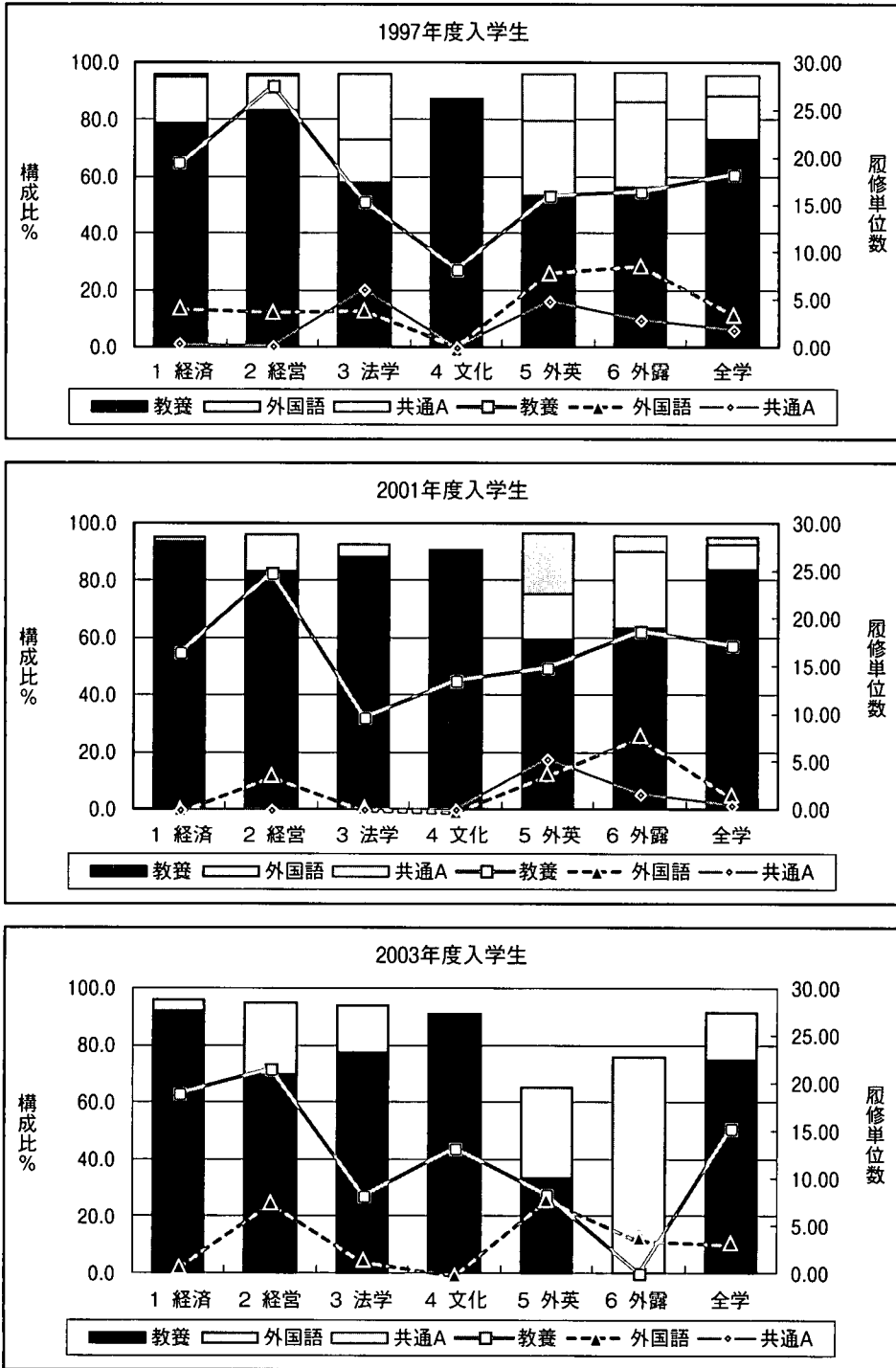
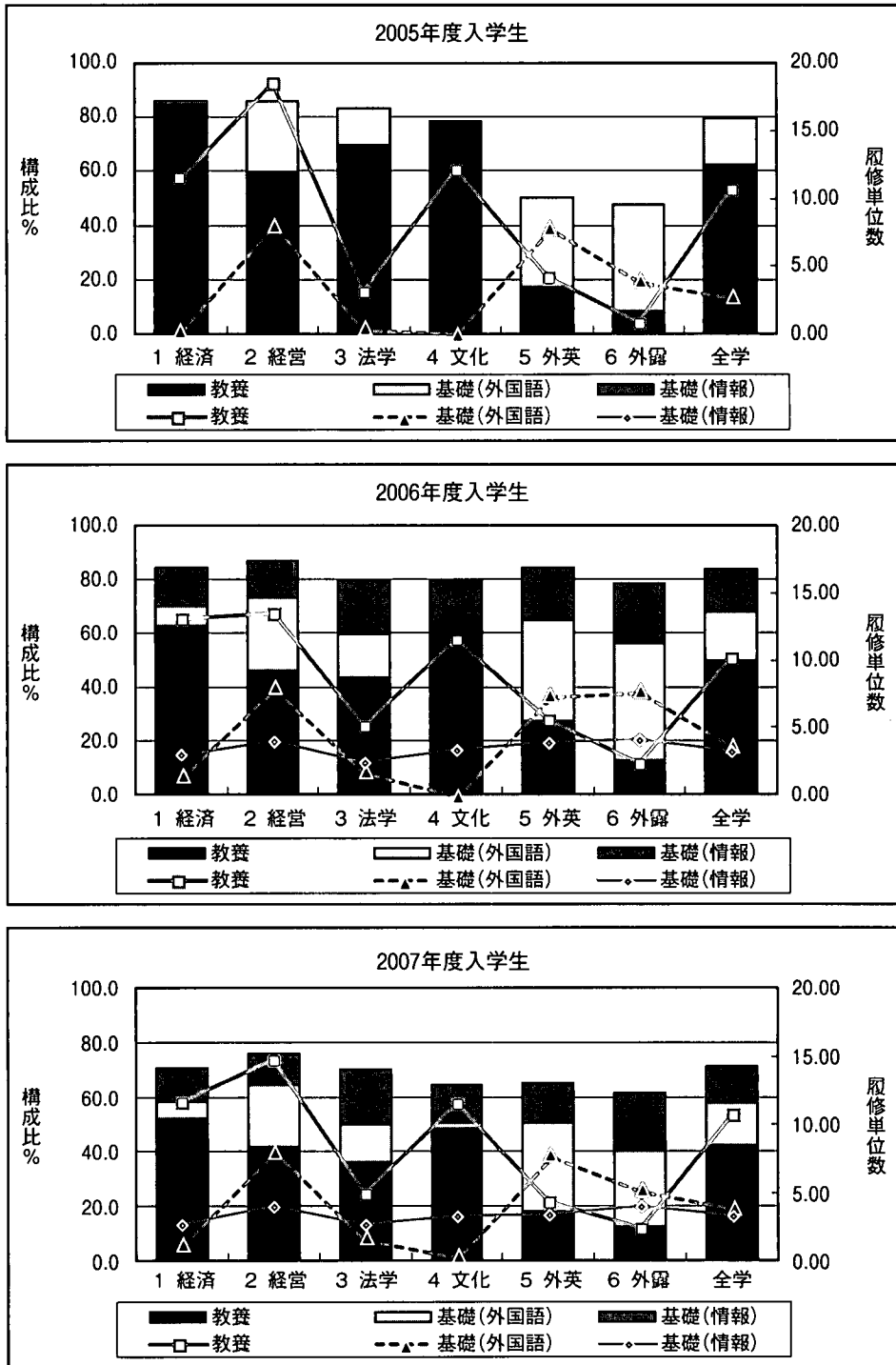


図-16 共通科目の科目群別構成

(2)



札幌大学学生の修学状況について

表-5 経済・法学・文化学部生の科目群別履修状況（初年次生）

所属学部	入学年度	共通科目						専門科目					
		履修単位数			共通科目内比率%			履修単位数			専門内構成%		
		外国語	共通A*	教養	外国語	共通A*	教養	外国語系	情報系	基幹2	外国語系	情報系	基幹2
経済	1997	4.05	0.27	19.42	16.4	1.1	78.4						
	2000	0.44	0.02	15.91	2.5	0.1	91.7	1.96	1.04		7.1	3.8	
	2001	0.26	0.06	16.50	1.4	0.4	93.4	4.13	1.44		15.1	5.3	
	2003	0.87		18.97	4.2		91.7	3.99	1.76		16.1	7.1	
	2005	0.19		11.44	1.4		84.7	3.74	3.34		13.6	12.1	
	2006	1.54	2.96	13.04	7.4	14.2	62.6	1.67			8.6		
	2007	1.36	2.66	11.62	6.1	12.0	52.3	2.46			12.7		
法学	1997	4.10	6.06	15.41	15.4	22.8	57.9						
	2000	4.03	7.79	14.98	14.7	28.4	54.5						
	2001	0.45	0.03	9.65	4.2	0.3	88.2	1.42	1.35	8.07	3.9	3.7	22.0
	2003	1.74		8.19	16.4		77.4	1.81	1.35	7.16	5.0	3.7	19.8
	2005	0.59		3.09	13.2		69.9	1.76	0.52	11.28	4.1	1.2	26.4
	2006	1.89	2.37	5.09	16.2	20.2	43.4	0.71	0.25	9.95	2.2	0.8	30.9
	2007	1.89	2.69	4.91	13.9	19.8	36.2	0.40	0.05	9.56	1.3	0.2	31.6
文化	1997	0.00	0.00	8.23	0.0	0.0	87.2	8.33	7.42		26.0	23.1	
	2000	0.00	0.00	11.66	0.0	0.0	90.8	7.11	6.81		23.5	22.5	
	2001	0.00	0.00	13.55	0.0	0.0	90.7	4.36	3.10		15.4	10.9	
	2003	0.00		13.23	0.0		90.7	7.81	2.83		27.2	9.8	
	2005	0.00		12.10	0.0		78.3	7.74	3.85		28.3	14.1	
	2006	0.00	3.31	11.53	0.0	17.8	61.9	8.21	0.77		29.5	2.8	
	2007	0.48	3.33	11.51	2.0	14.0	48.5	7.05	0.58		28.7	2.3	
所属学部	入学年度	共通科目						専門科目					
		履修者率			履修者1人当履修単位数			履修者率			履修者1人当履修単位数		
		外国語	共通A*	教養	外国語	共通A*	教養	外国語系	情報系	基幹2	外国語系	情報系	基幹2
経済	1997	99.7	6.3	100.0	4.06	4.25	19.42						
	2000	15.6	0.5	99.5	2.81	4.00	15.99	41.4	52.2		4.74	2.00	
	2001	9.4	2.1	99.0	1.72	1.50	14.69	72.8	72.1		5.67	2.00	
	2003	18.3		100.0	4.78		18.97	77.4	88.2		5.15	2.00	
	2005	3.6		100.0	5.27		11.44	73.8	86.6		5.08	3.86	
	2006	34.7	78.0	99.7	4.43	3.79	13.08	42.7			3.90		
	2007	36.2	67.2	97.4	3.76	3.97	11.92	52.4			4.63		
法学	1997	99.7	72.7	99.4	4.11	8.33	15.51						
	2000	100.0	91.3	100.0	4.03	8.54	14.98						
	2001	11.4	0.9	95.6	3.31	2.00	8.73	59.4	67.7	94.3	2.40	2.00	8.56
	2003	39.6		95.4	4.38		8.59	65.5	52.3	97.0	2.76	2.58	7.59
	2005	9.6		61.1	6.09		5.06	74.7	20.5	99.6	2.36	2.51	11.33
	2006	48.3	64.5	80.4	3.92	3.67	6.33	35.5	9.1	98.9	2.00	2.75	10.06
	2007	51.1	67.6	77.3	3.69	3.98	6.35	19.9	1.1	96.0	2.00	4.00	9.95
文化	1997	0.0		96.6	0.00		8.52	100.0	100.0		8.33	7.42	
	2000	0.0		99.5	0.00		11.72	100.0	100.0		7.11	6.81	
	2001	0.0		99.5	0.00		12.35	96.8	75.6		4.50	4.11	
	2003	0.0		99.2	0.00		13.33	92.1	70.9		4.72	4.01	
	2005	0.0		100.0	0.00		12.10	95.6	91.3		8.09	4.22	
	2006	0.0	83.6	99.0	0.00	3.96	11.65	96.9	19.5		8.47	3.95	
	2007	8.2	83.1	99.6	5.80	4.01	11.56	90.9	15.6		7.73	3.68	

注)「共通A*」欄は2006—2007年度については「基礎(情報)」。

図-18 入学後2年間の修学状況 (全学部生)

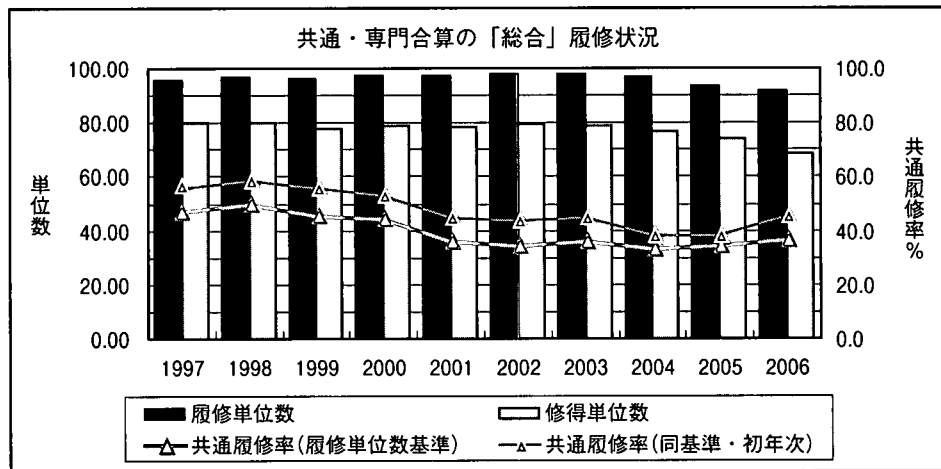
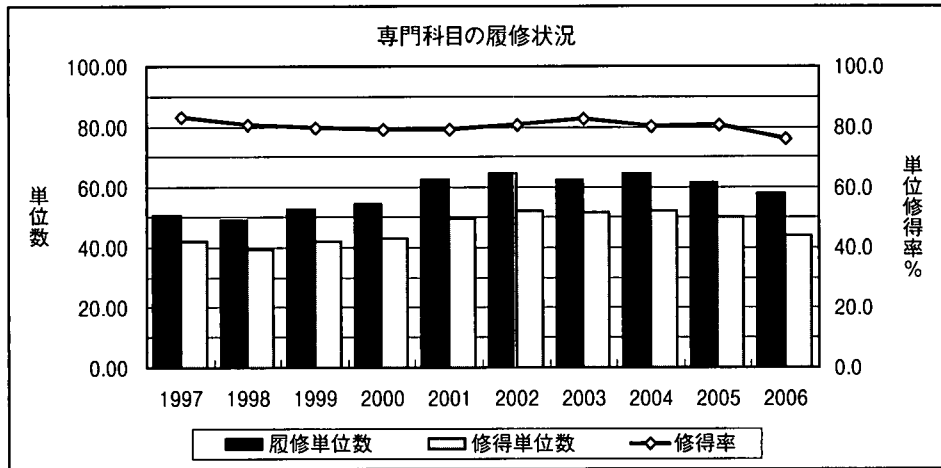
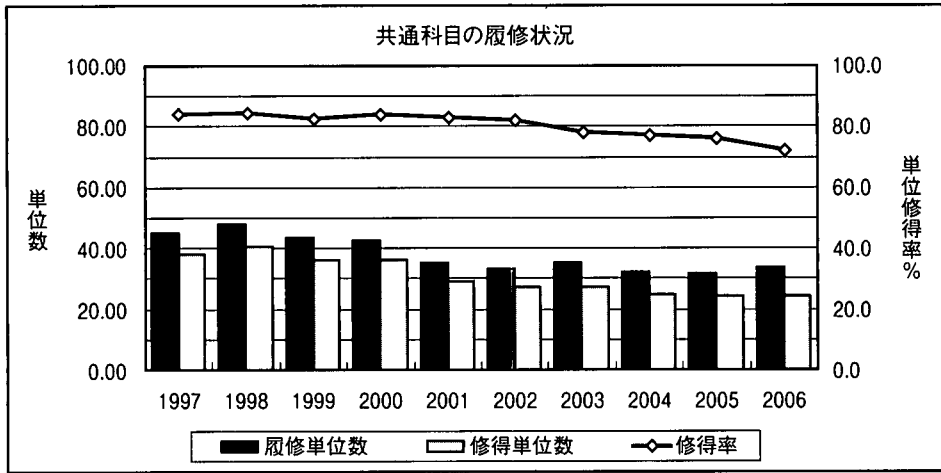
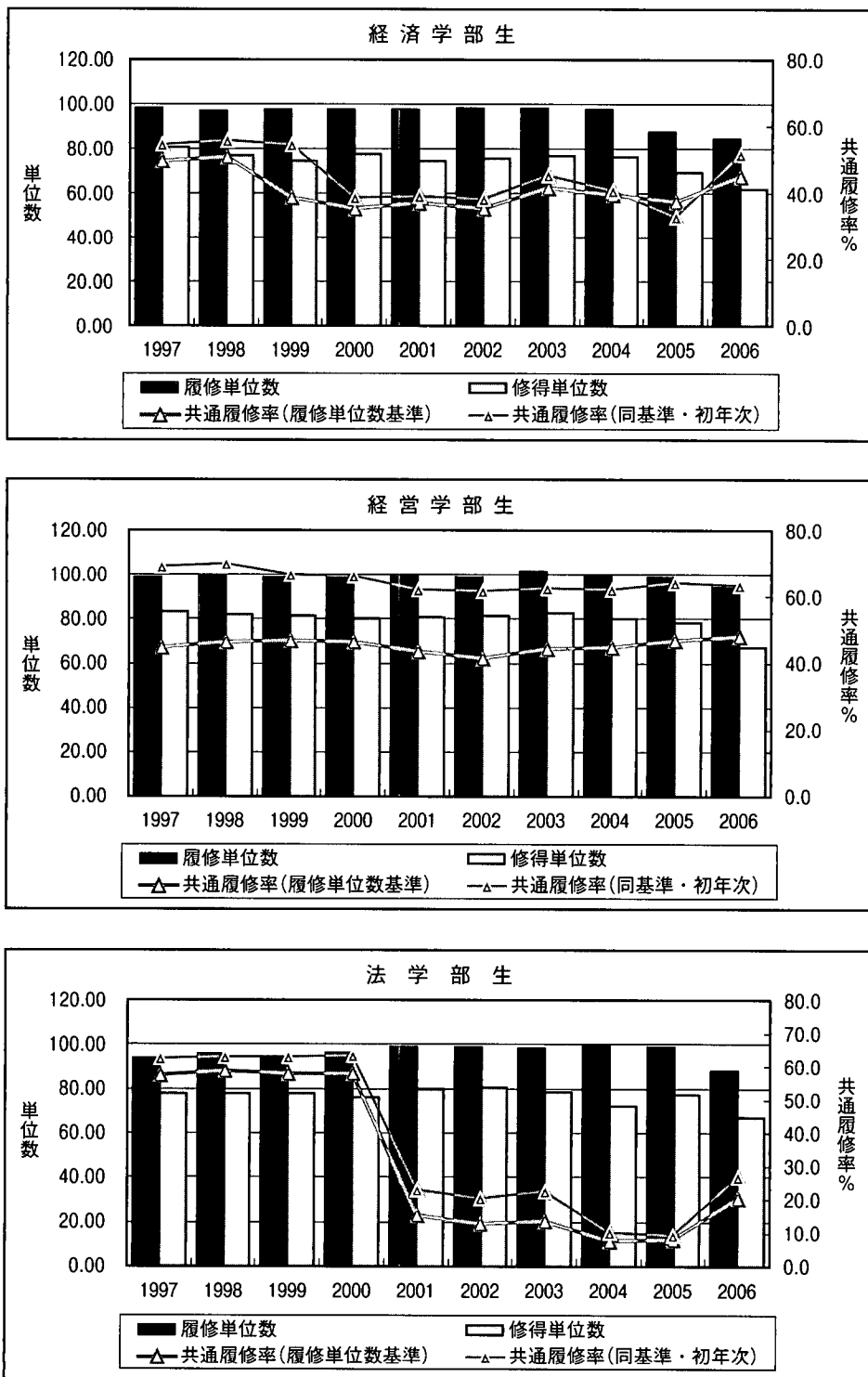


図-19 入学後2年間の修学状況（共通科目・専門科目合算の「総合」）



(図-19 続)

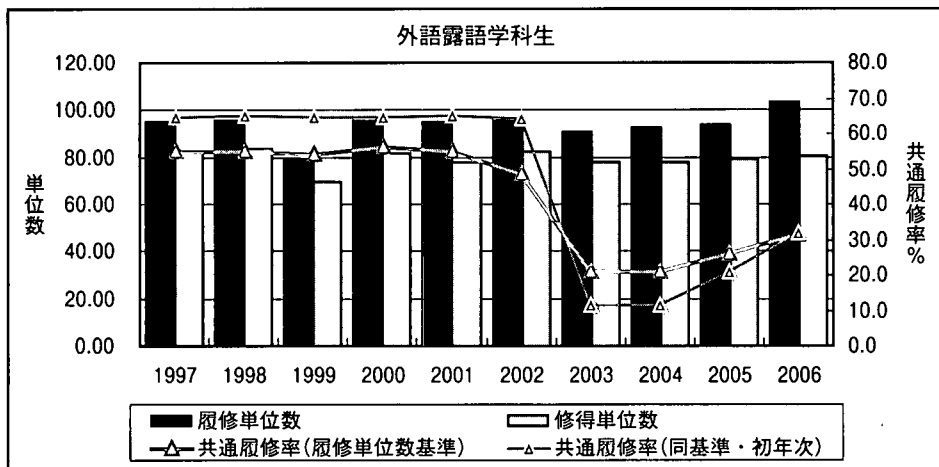
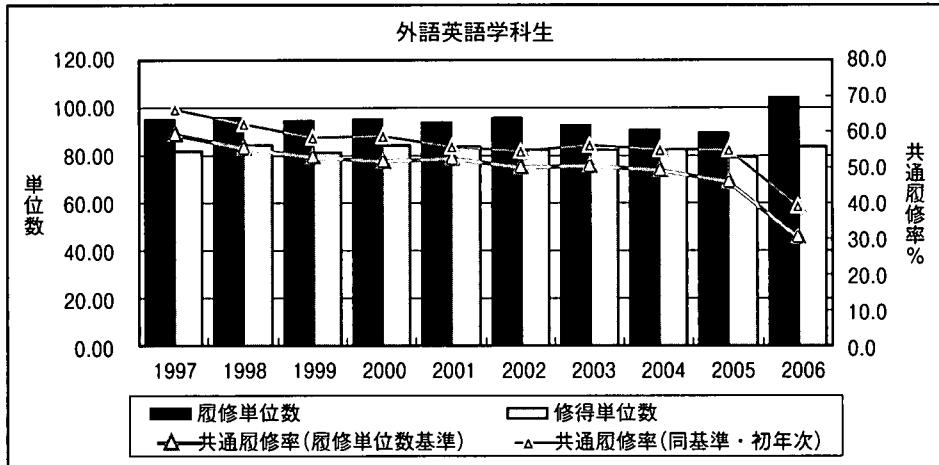
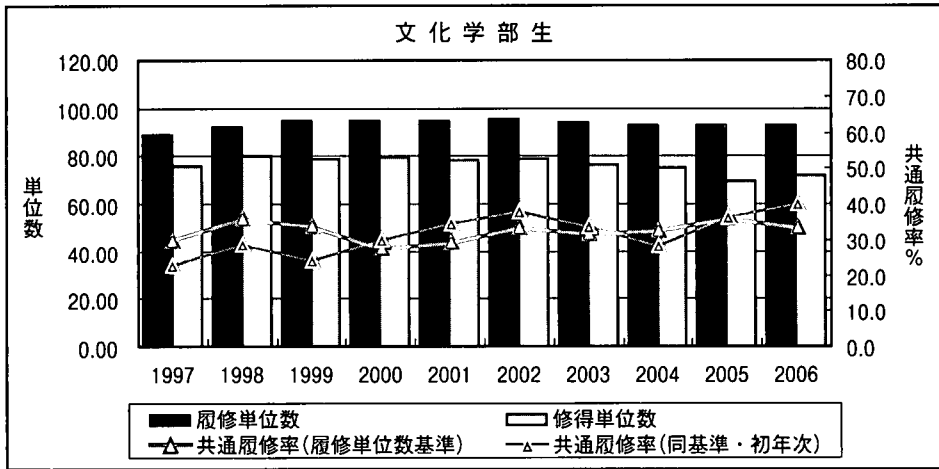


図-20 入学後3年間の修学状況（全学部生）

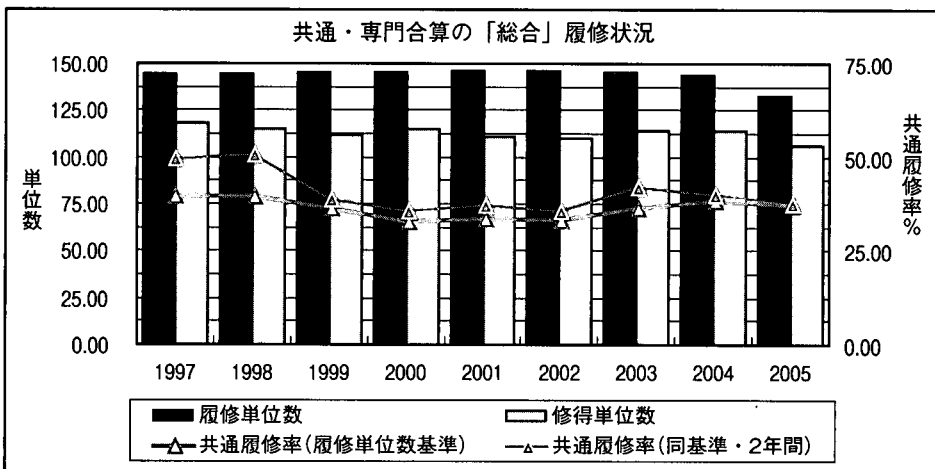
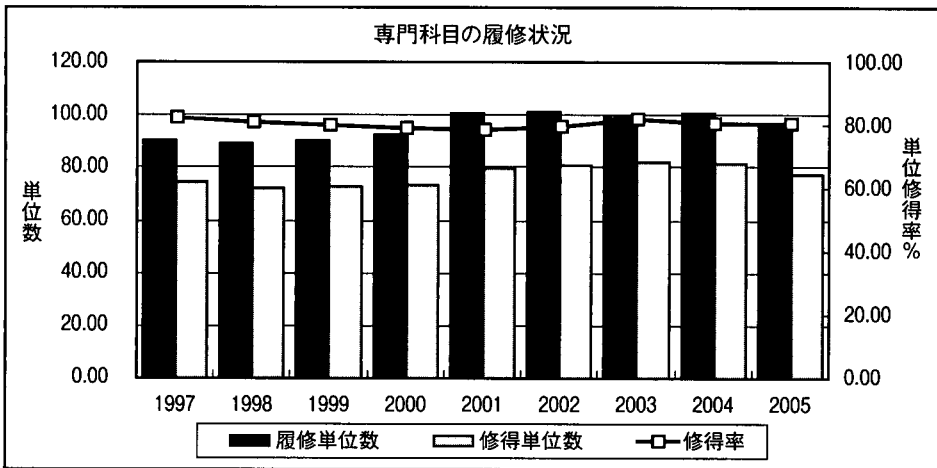
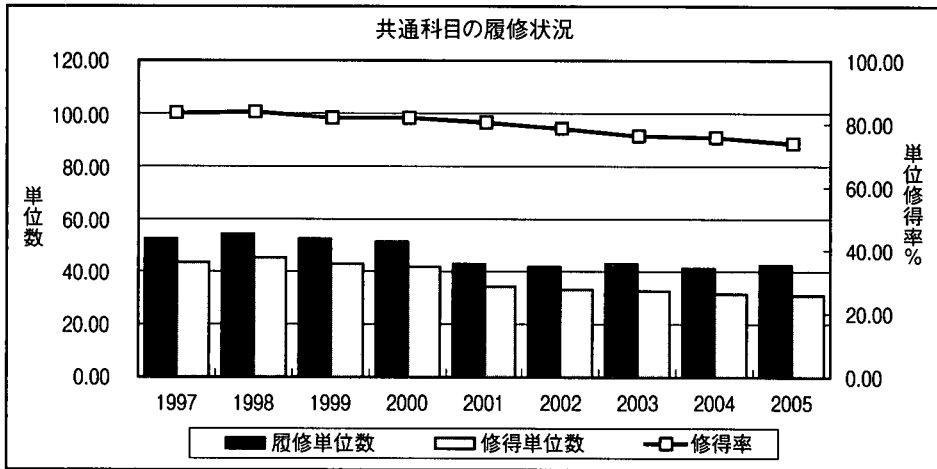
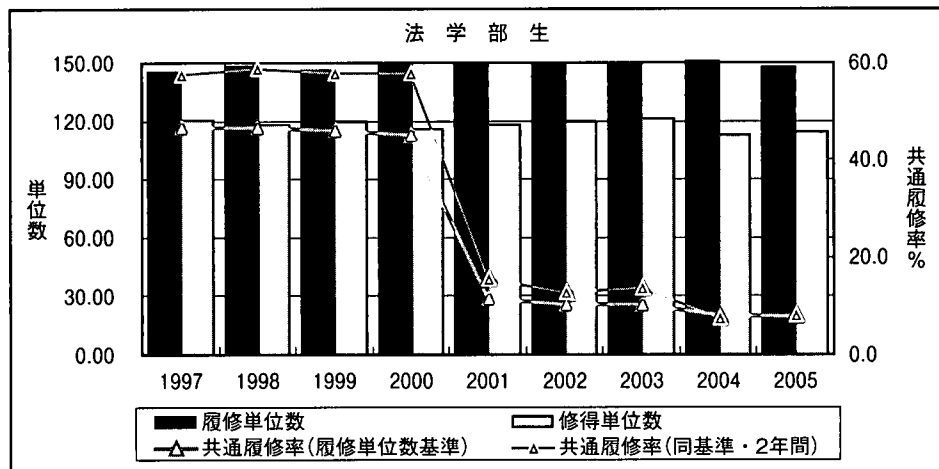
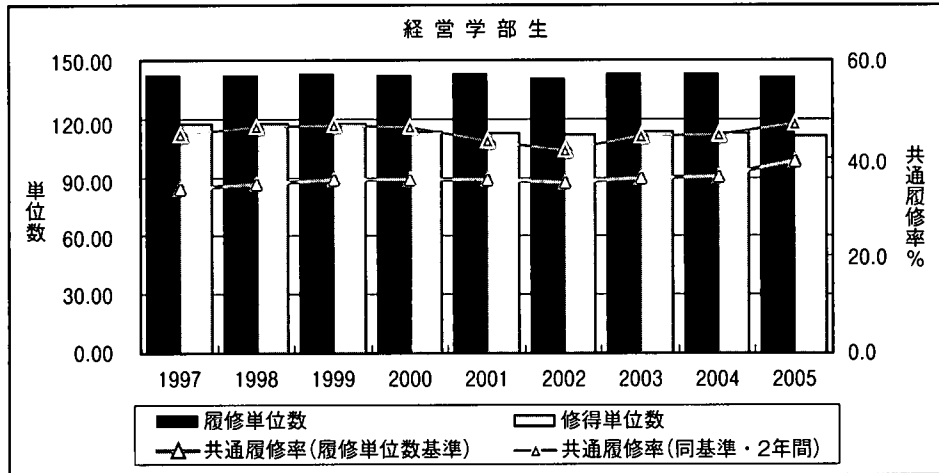
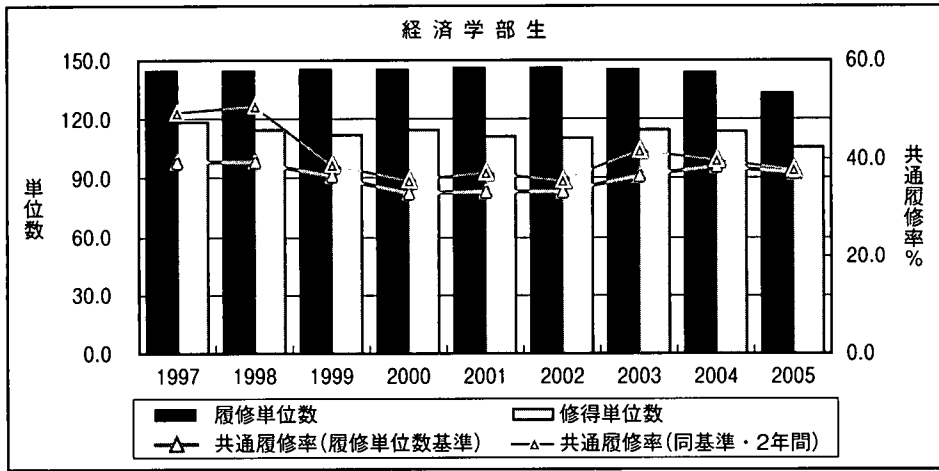


図-21 入学後3年間の修学状況（共通科目・専門科目合算の「総合」）



(図-21 続)

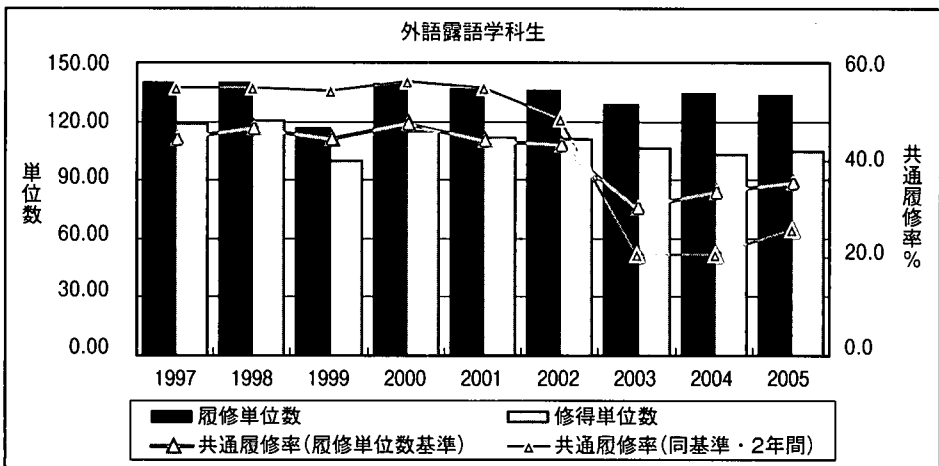
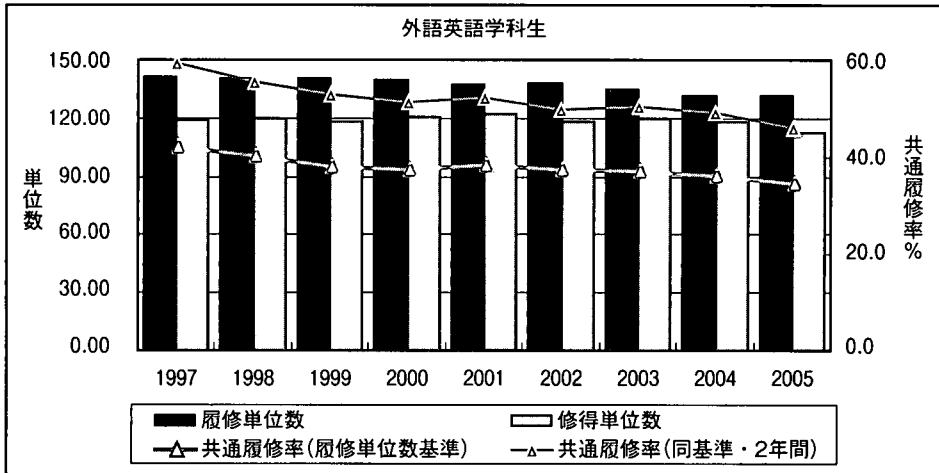
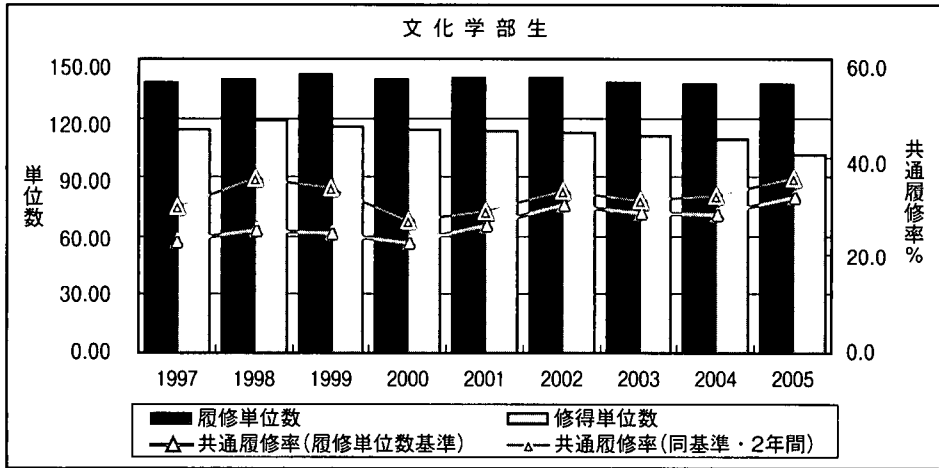


図-22 入学後3年間の累積修得単位数別構成の推移

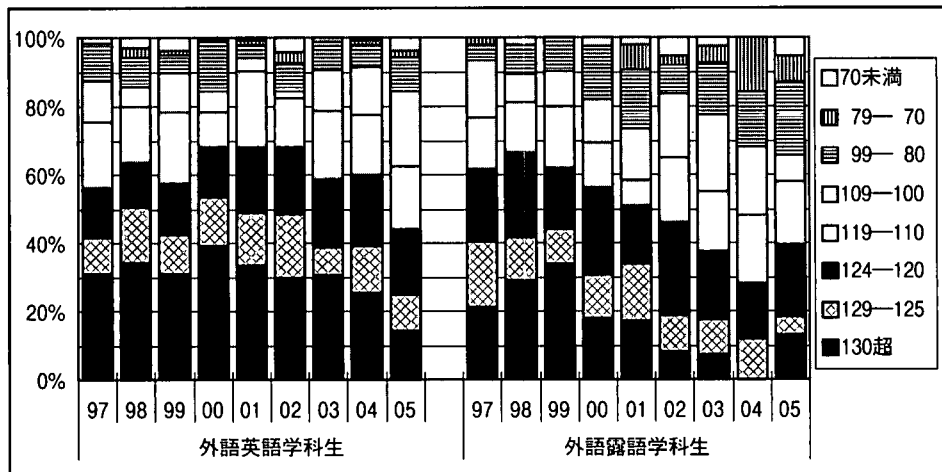
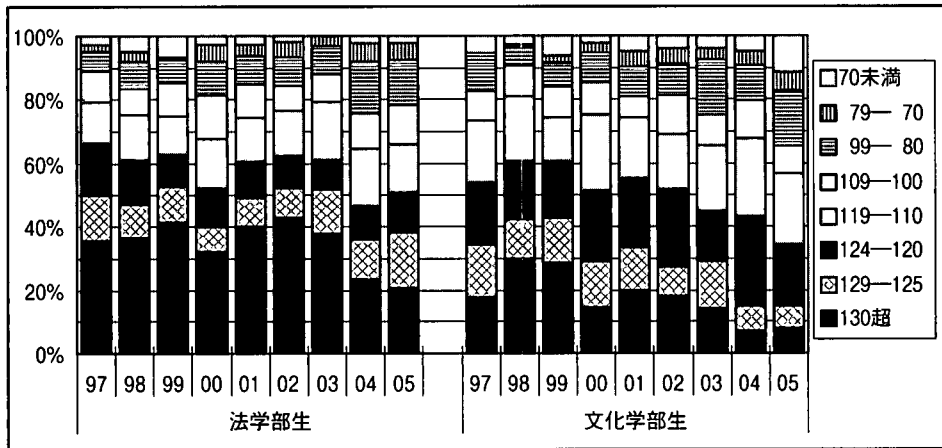
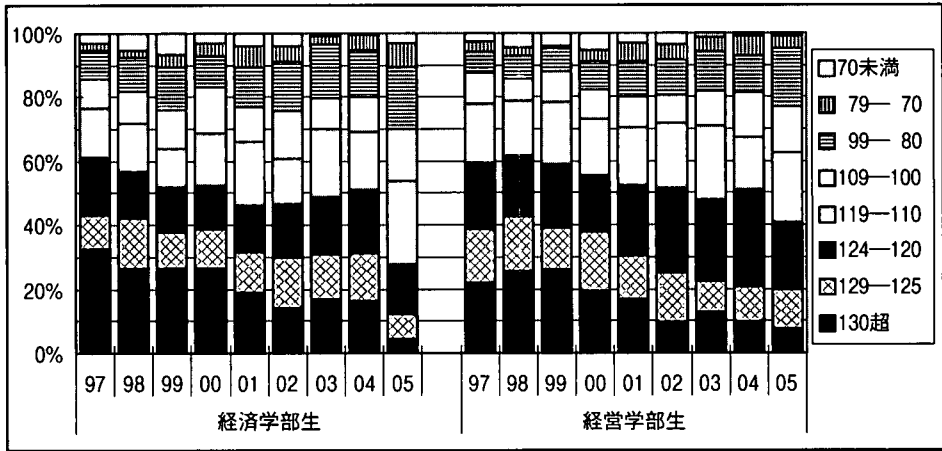
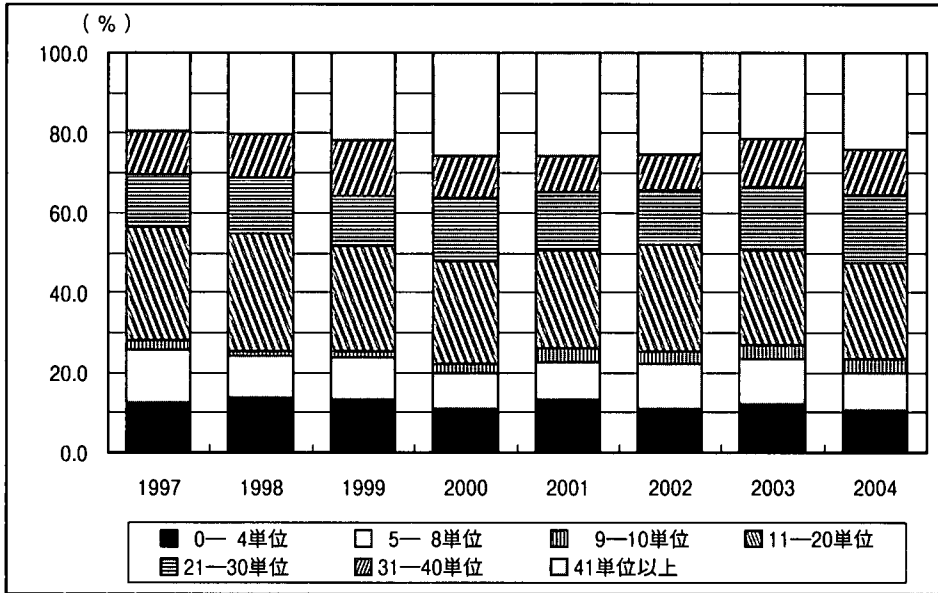


図-23 4年次生（全学部生）の履修状況

(1) 共通・専門合算の「総合」履修単位数別構成



(2) 共通科目の履修単位数別構成

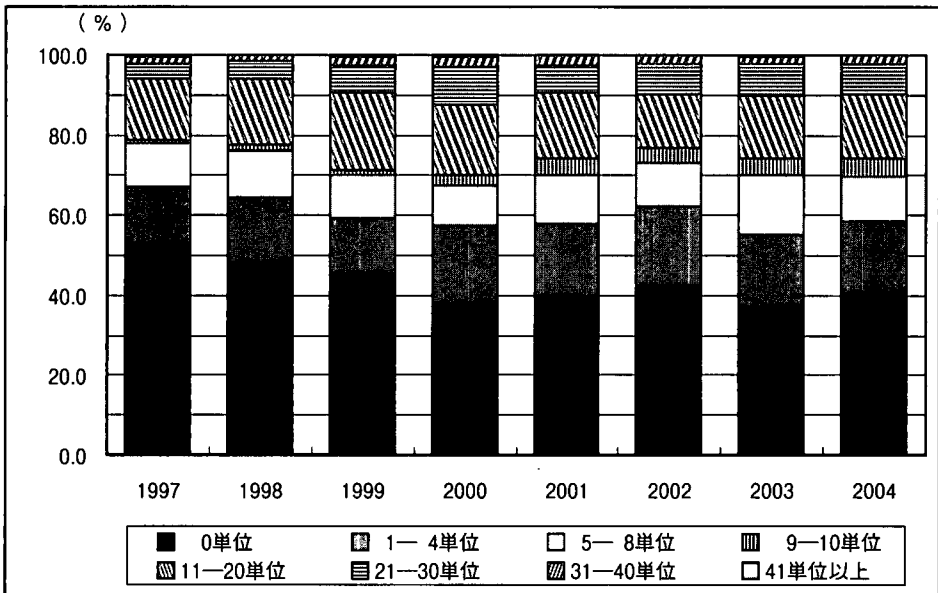


表-6 4年次生（入学後4年目）の修学状況

入学年度	所 属	履修科目数			履修単位数			修得単位数		
		共通	専門	総合	共通	専門	総合	共通	専門	総合
1997年度	1 経済	1.62	6.06	7.68	6.39	13.79	20.18	3.87	8.65	12.52
	2 経営	0.94	4.29	5.23	3.53	16.96	20.49	2.42	11.85	14.28
	3 法学	2.85	4.63	7.48	11.03	18.03	29.06	7.16	11.20	18.36
	4 文化	0.70	6.03	6.73	2.75	22.58	25.34	1.77	15.95	17.72
	5 外英	0.48	6.26	6.75	1.78	23.36	25.15	1.11	20.53	21.64
	6 外露	1.87	4.32	6.19	6.81	17.28	24.09	5.15	13.62	18.77
	全 学	1.45	5.27	6.71	5.59	17.94	23.53	3.61	12.39	15.99
1998年度	1 経済	1.94	7.25	9.19	7.44	15.98	23.42	3.80	9.15	12.95
	2 経営	1.14	3.84	4.98	4.22	15.08	19.29	2.55	10.26	12.81
	3 法学	2.48	5.13	7.61	9.56	20.26	29.83	5.54	12.71	18.25
	4 文化	0.46	6.52	6.99	1.83	22.97	24.80	1.11	16.28	17.39
	5 外英	0.72	6.46	7.18	2.57	23.96	26.53	1.64	19.33	20.97
	6 外露	1.29	5.04	6.33	5.00	20.17	25.17	3.00	17.50	20.50
	全 学	1.50	5.63	7.13	5.71	18.31	24.02	3.22	12.23	15.45
1999年度	1 経済	2.61	7.23	9.84	10.02	15.89	25.91	5.88	9.47	15.35
	2 経営	1.27	3.76	5.03	4.90	14.51	19.41	2.77	9.86	12.63
	3 法学	2.91	4.76	7.66	11.22	18.18	29.40	6.69	11.01	17.70
	4 文化	0.59	7.31	7.90	2.34	25.62	27.96	1.32	18.06	19.38
	5 外英	0.71	6.56	7.26	2.45	22.64	25.09	1.23	18.26	19.49
	6 外露	1.66	4.68	6.34	6.52	18.72	25.24	4.64	16.32	20.96
	全 学	1.83	5.69	7.52	7.05	18.05	25.11	4.14	12.07	16.21
2000年度	1 経済	5.46	7.24	12.69	10.81	15.71	26.52	4.59	7.93	12.52
	2 経営	2.20	4.30	6.50	4.35	16.84	21.19	2.17	11.84	14.01
	3 法学	5.76	5.74	11.50	11.71	21.39	33.10	6.70	13.46	20.16
	4 文化	2.88	6.28	9.16	5.71	21.42	27.13	2.65	15.90	18.55
	5 外英	0.97	6.31	7.29	2.27	22.40	24.67	1.57	19.20	20.77
	6 外露	3.31	7.00	10.31	6.67	21.69	28.36	2.67	14.92	17.59
	全 学	3.84	5.86	9.70	7.70	18.68	26.38	3.80	12.34	16.14
2001年度	1 経済	5.69	7.15	12.84	11.31	15.54	26.85	5.10	8.20	13.30
	2 経営	3.03	8.06	11.09	6.03	17.86	23.89	2.37	10.35	12.71
	3 法学	2.05	6.13	8.18	4.04	21.77	25.82	2.04	13.03	15.07
	4 文化	2.71	6.10	8.80	5.29	19.55	24.84	2.15	12.47	14.62
	5 外英	0.95	5.30	6.25	2.18	20.28	22.46	1.50	17.98	19.49
	6 外露	5.28	6.92	12.21	10.34	21.17	31.51	5.92	17.02	22.94
	全 学	3.48	6.93	10.41	6.92	18.45	25.37	3.11	11.36	14.47
2002年度	1 経済	5.96	7.96	13.93	11.89	17.72	29.61	4.97	8.93	13.91
	2 経営	2.71	6.88	9.59	5.39	15.57	20.96	2.66	9.70	12.35
	3 法学	1.65	6.94	8.60	3.27	23.79	27.06	1.51	14.94	16.45
	4 文化	2.91	6.15	9.07	5.77	19.29	25.06	2.21	12.32	14.52
	5 外英	0.68	5.78	6.46	1.39	21.94	23.33	0.72	17.81	18.53
	6 外露	6.32	4.92	11.24	12.65	15.24	27.89	6.92	12.00	18.92
	全 学	3.27	6.88	10.15	6.52	18.74	25.26	2.89	11.62	14.51
2003年度	1 経済	5.08	5.87	10.95	10.11	14.02	24.14	4.87	8.66	13.53
	2 経営	3.29	6.88	10.17	6.51	15.54	22.06	3.26	10.67	13.93
	3 法学	3.03	5.72	8.75	5.94	19.15	25.09	2.45	12.19	14.63
	4 文化	3.43	6.36	9.79	6.80	21.02	27.82	2.80	13.81	16.61
	5 外英	0.92	6.17	7.08	1.82	19.68	21.51	1.25	16.51	17.76
	6 外露	9.00	3.85	12.85	17.90	11.35	29.25	10.70	8.70	19.40
	全 学	3.69	6.20	9.89	7.31	17.09	24.40	3.49	11.49	14.98
2004年度	1 経済	4.46	4.60	9.06	8.89	16.52	25.40	3.58	10.21	13.79
	2 経営	3.70	6.78	10.49	7.37	15.55	22.92	3.48	10.68	14.15
	3 法学	2.47	7.52	10.00	4.87	25.32	30.19	2.43	15.71	18.14
	4 文化	3.30	6.08	9.39	6.57	20.14	26.70	2.98	13.11	16.09
	5 外英	0.88	6.52	7.40	1.75	21.62	23.37	0.96	17.36	18.32
	6 外露	11.32	3.96	15.28	21.84	11.28	33.12	12.44	8.24	20.68
	全 学	3.44	6.22	9.66	6.83	19.18	26.01	3.14	12.66	15.80